

2021.12.03 作成

2021 年 11 月新聞書評



もりのおふとん(福音館の幼児絵本)

西村敏雄 著

福音館書店

森の中に大きなふとんがありました。ライオンがやってきて、ふとんに入ってみたら、「ふかふかおふとん、いいきもち!」そこへ、ワニ、こぶたと、動物たちがつぎつぎにやってきて...

産経新聞 2021/11/04

2020:10./ 22p
978-4-8340-8569-3

¥990〔税込〕



100冊の自己啓発書より「徒然草」を読め!(祥伝社新書 640)

適菜 収 著

祥伝社

「徒然草」は世をはかなんだ老人が書いた退屈な古典などではない。現代人の固定観念をぶち壊す過激な思想書だ!「徒然草」のハイライトの部分引用し、その前後も含めた現代語訳をコメントとともに掲載する。

産経新聞 2021/11/06

2021:11./ 220p
978-4-396-11640-8

¥946〔税込〕



ありがとうのうたをうたえば

マイケル・モーパーゴ 著

小学館

クロウタドリが木の上で歌い出す。その歌は、森から川、海へと伝わって、生き物たちみんなに届き、響き渡り...。地球で生きる生きものたちが、心をひとつにして歌を歌う絵本。

産経新聞 2021/11/07

2021:10./ 1冊(ページ
付なし)

978-4-09-725122-4

¥1,650〔税込〕



- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2021 年 12 月時点での税込み価格です。



カザモニカ〜黄金便器のゴッドファーザー〜

フロリアーナ・ブルフォン 著

早川書房

強盗、麻薬、殺人、汚職、恐喝…。ローマで最も大規模かつ危険な犯罪組織のひとつ、カザモニカ。1960年代から秘匿されてきたその謎に、組織の脅迫にさらされながらも切り込んだジャーナリストによるルポ

ルタージュ。

産経新聞 2021/11/07

2021.9./ 261p
978-4-15-210047-4

¥3,960〔税込〕



* 9 7 8 4 1 5 2 1 0 0 4 7 4 *



つつまし酒〜あそこ、父と食べた「銀将」のラーメン〜

パリッコ 著

光文社

自宅やベランダでシチュエーションに凝ってみたり、あれこれグッズを試してみたり、お酒やつまみにこだわってみたり…。小さな幸せを紡ぐ“ほろ酔い”エッセイ集。

note 連載を加筆し単行本化。酒村ゆっけの特別寄稿も掲載。

産経新聞 2021/11/07

2021.8./ 284p
978-4-334-95263-1

¥1,650〔税込〕



* 9 7 8 4 3 3 4 9 5 2 6 3 1 *



暮らしの中の二十四節気〜丁寧に生きてみる〜

黛まどか 著

春陽堂書店

節気と旧暦を頼りに農作をし、豊漁を願う日本の暮らし。立春、啓蟄、清明、立夏、芒種、小暑など、節気を詠んだ俳句を鑑賞しながら、祖霊への思いを綴る。『春野』『Web 新小説』連載を書籍化。

産経新聞 2021/11/07

2021.10./ 255p
978-4-394-55001-3

¥1,540〔税込〕



* 9 7 8 4 3 9 4 5 5 0 0 1 3 *



廃遊園地の殺人

斜線堂 有紀 著

実業之日本社

廃墟となったテーマパーク・イリュージオンランドに招待された廃墟マニアの真上。「イリュージオンランドは宝を見つけたものに譲る」と言われ招待客たちは宝探しをはじめが、翌朝着ぐるみを着た死体が串刺しになって見つかり…。

産経新聞 2021/11/07

2021.9./ 356p
978-4-408-53793-1

¥1,980〔税込〕



* 9 7 8 4 4 0 8 5 3 7 9 3 1 *



コロナとオリンピック〜日本社会に残る課題〜

石坂 友司 著

人文書院

コロナ禍の混乱を機にオリンピックと社会を変えることはできるのか。東京オリンピック延期決定以後の経緯を整理し、震災復興、女性差別など、浮かび上がった日本社会の問題を析出し、今後のオリンピックのあり方を検討する。

産経新聞 2021/11/07

2021.7./ 222p
978-4-409-24143-1

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 4 0 9 2 4 1 4 3 1 *



敗戦は罪なのか～オランダ判事レーリンクの東京裁判日記～

三井美奈 著

産経新聞出版

東京裁判の判事団の中で誰よりも日本を探訪し友を作り、日本人を理解しようとしたオランダ判事ベルト・レーリンク。2年9カ月の東京滞在で綴った日記と書簡から、東京裁判の内実に迫る。『正論』連載を大幅に加筆修正。

産経新聞 2021/11/07

2021.8./ 252p
978-4-8191-1403-5

¥1,870〔税込〕



世界「失敗」製品図鑑～「攻めた失敗」20例でわかる成功への近道～

荒木 博行 著

日経 B P 社

グローバル企業の「失敗」20事例を徹底解説。「どういう製品だったのか」「どのようにして失敗に至ったのか」「なぜ失敗したのか」「私たちへのメッセージ」といった項目に分けて考察する。

産経新聞 2021/11/07、読売新聞 2021/11/14、朝日新聞 2021/11/27

2021.10./ 287p
978-4-296-00039-5

¥1,980〔税込〕



新型コロナと向き合う～「かかりつけ医」からの提言～(岩波新書 新赤版 1900)

横倉 義武 著

岩波書店

医療現場での課題とは何か。医療政策・医療行政のどこが問題なのか。初動の緊迫した半年間、日本医師会会長として、新型コロナ感染症対応にあたった経験から得た教訓と現状を踏まえ、「かかりつけ医」の果たす役割を考える。

産経新聞 2021/11/07、毎日新聞 2021/11/27

2021.10./ 10p,242p
978-4-00-431900-9

¥946〔税込〕



最澄と徳一～仏教史上最大の対決～(岩波新書 新赤版 1899)

師 茂樹 著

岩波書店

三乗説と一乗説のどちらが方便で、どちらが真実の教えか。仏教史上まれにみる規模におよんだ最澄と徳一の批判の応酬。5年にわたり濃密な対話を続けたのはなぜか。何をどう語りあったのか。論争を解きほぐして描く。

産経新聞 2021/11/13

2021.10./ 16p,229p
978-4-00-431899-6

¥968〔税込〕



銭躍る東シナ海～貨幣と贅沢の一五?一六世紀～(講談社選書メチエ 754)

大田 由紀夫 著

講談社

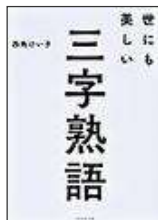
15世紀後半、北京で流行し始めた派手な消費生活はやがて朝鮮半島・日本列島にも伝播した。「贅沢の連鎖」はなぜ起きたか? 同時発生した悪貨の横行の原因は? 共進化する東アジア史を、貨幣という視点から捉える試み。

産経新聞 2021/11/13

2021.9./ 275p
978-4-06-525245-1

¥1,980〔税込〕





世にも美しい三字熟語

西角 けい子 著

ダイヤモンド社

日本語がもつ豊かな漢字文化があり、大和言葉や漢語の世界が広がる「三字熟語」。「雪月花」「安本丹」「大団円」など、さまざまな三字熟語をクイズ形式で紹介する。コラム「夏目漱石と太宰治の「三字熟語」の世界」も収録。

産経新聞 2021/11/13

2021:10./ 251p
978-4-478-10980-9

¥1,540〔税込〕



ヒトラー～虚像の独裁者～(岩波新書 新赤版 1895)

芝 健介 著

岩波書店

ヒトラーとは何者だったのか。生い立ちから、ホロコーストへと至る時代背景、死後の歴史修正主義や再生産される「ヒトラー現象」までを視野に入れながら、最新の史料を踏まえて「ヒトラー神話」を解き明かす。

産経新聞 2021/11/14

2021:9./ 8p,362p,8p
978-4-00-431895-8

¥1,276〔税込〕



人体大全～なぜ生まれ、死ぬその日まで無意識に動き続けられるのか～

ビル・ブライソン、桐谷知未 著

新潮社

ほぼ同じDNAをもつ2人が、何もかも異なるのはなぜか。毎日5個の細胞が癌化しているのに、なぜ簡単には死なないのか。医療・医学の最前線取材し、人体の奇跡のシステムを描き尽くした、エンタメ・ノンフィクション。

産経新聞 2021/11/14

2021:9./ 497p,8p
978-4-10-507231-5

¥2,970〔税込〕



星を掬う

町田 そのこ 著

中央公論新社

千鶴が夫から逃げるために向かった「さざめきハイツ」には、自分を捨てた母・聖子がいいた。他の同居人は、娘に捨てられた彩子と、聖子を「母」と呼び慕う恵真。4人の共同生活は、思わぬ気づきと変化を迎え....。

産経新聞 2021/11/14

2021:10./ 327p
978-4-12-005473-0

¥1,760〔税込〕



ポップス歌手の耐えられない軽さ

桑田 佳祐 著

文藝春秋

マイクをペンに持ちかえて、不埒に、真面目に、時に感傷的に。音楽シーンのトップを走り続ける桑田佳祐が、自身の原点、憧れの音楽家、バンドへの情熱を初めて明かす。『週刊文春』連載に加筆修正し単行本化。

産経新聞 2021/11/14

2021:10./ 429p
978-4-16-391449-7

¥2,500〔税込〕





自治体元気印のレシピ～松浪流、地方創生&再生への提言 175 項目～

松浪 健四郎 著

体育とスポーツ出版社

地方の風土、歴史、文化は異なる。この相違点こそが売り物になる。魅力ある個性をいかに創造するか？ 環境面から、エネルギー面、防災、健康・保健面まで、地方創生&再生への 175 項目の提言を行う。

産経新聞 2021/11/14

2021.10./ 406p
978-4-88458-358-3

¥1,980〔税込〕



世界は「関係」でできている～美しくも過激な量子論～

カルロ・ロヴェッリ 著

N H K 出版

世界は実体ではなく、関係に基づいて構成されている。科学界最大の発見であり、最大の謎とされる量子論。はたして量子論の核心とは何か、それはどんな新しい世界像をもたらしたのかを、研ぎ澄まされた言葉で明快に綴る。

産経新聞 2021/11/20

2021.10./ 238p
978-4-14-081881-7

¥2,200〔税込〕



真・慶安太平記

真保 裕一 著

講談社

徳川の治世。江戸市中に一人の兵法者が現れる。名は由比正雪。その恐るべき企みとは…。由比正雪の乱として知られる「慶安の変」の裏で何があったのか。新たな解釈と視点で史実を語り直す、書き下ろし大河歴史小説。

産経新聞 2021/11/21

2021.10./ 325p
978-4-06-524998-7

¥1,925〔税込〕



宗教図像学入門～十字架、神殿から仏像、怪獣まで～(中公新書 2668)

中村 圭志 著

中央公論新社

なぜ「魚」がキリストの象徴なのか。地獄にはなぜ「火」が付き物なのか。ユダヤ教、キリスト教、仏教をはじめ、世界の主な宗教の図像学的知識を解説。トピックごとに、奥深い宗教文化の魅力を紹介する。

産経新聞 2021/11/21

2021.10./ 3p,267p
978-4-12-102668-2

¥1,056〔税込〕



雲上の巨人ジャイアント馬場

門馬 忠雄 著

文藝春秋

日本プロレスを草創期から牽引したレジェンド、ジャイアント馬場。最古参プロレスジャーナリストが、昭和の「巨人」と伴走した遙かなる日々を振り返った、35 年にわたる涙と笑いの回想録。

産経新聞 2021/11/21

2021.10./ 237p
978-4-16-391456-5

¥1,870〔税込〕





WHY TIME FLIES～なぜ時間は飛ぶように過ぎるのか～

アラン・バーディック 著

東洋館出版社

事故にあったとき、世界がスローモーションになるのは本当か。時間がゆっくり進んだり、あつという間だったりするのはなぜか。もっとも身近でもっとも謎に満ちた「人の時間」の実態に、膨大な取材と文献で迫る。

産経新聞 2021/11/21

2021:10./ 423p
978-4-491-04404-0

¥2,200〔税込〕



黒人と白人の世界史～「人種」はいかにつくられてきたか～(世界人権問題叢書 104)

オレリア・ミシェル 著

明石書店

科学的には無効であっても、政治的、社会的現実として人種は存在する。大西洋奴隷貿易、奴隷制、植民地主義とともに、「人種」がどのように生み出され、正当化されていったのかを歴史的に解明する。

産経新聞 2021/11/21

2021:10./ 373p
978-4-7503-5230-5

¥2,970〔税込〕



志村ふくみ染めと織り

志村ふくみ／古沢由紀子 著

求龍堂

豊かな色彩と抽象画を思わせる現代的な感覚で、絨織を「芸術の域に高めた」と評価され、人間国宝に認定された志村ふくみの評伝。『読売新聞』連載を再構成し、インタビューや取材、解説を加えて書籍化。

産経新聞 2021/11/21

2021:11./ 332p
978-4-7630-2108-3

¥3,300〔税込〕



トリアージ

犬養楓 著

書肆侃侃房

人の命に、優先順位をつけることが許されるのだろうか-。歌集「前線」の著者でもある現役救急科専門医の初小説。新型コロナウイルス感染症の重症患者治療を担う現場をリアルに描く。

産経新聞 2021/11/21

2021:10./ 307p
978-4-86385-495-6

¥1,650〔税込〕



がんをデザインする

中島ナオ 著

ニジノ絵本屋

髪があってもなくても楽しめる帽子、下着をつけなくても外出できる洋服…。31歳でがんを患い、「がんになっても大丈夫」と言える社会の実現を目指した QOL デザイナーの7年間をまとめる。

産経新聞 2021/11/21

2021:10./ 222p
978-4-908683-28-2

¥1,980〔税込〕





近代絵画 新版(新潮文庫 こ-6-5)

小林 秀雄 著

新潮社

モネの輪郭を拒否した、斬新な色彩技法。ゴッホが狂気と引き換えに手に入れたものの。ピカソの精神の根底に流れる直観的到達…。近代という奔流の中での絵画芸術の躍動を捉えた歴史的名著。

産経新聞 2021/11/27

2020:10./ 388p,7p 図

版 32p

978-4-10-100714-4

¥990〔税込〕



小林秀雄の「人生」論(NHK 出版新書 665)

浜崎 洋介 著

N H K 出版

小林秀雄・入門講義にして真正な日本人論。日本最高の知性と呼ばれた小林秀雄の活動を三期に分け、小林自らの問いである「人生いかに生きべきか」の答えが深化し明確になってゆく過程を、クリアに描き出す。

産経新聞 2021/11/27

2021:11./ 223p

978-4-14-088665-6

¥968〔税込〕



闇祓

辻村 深月 著

KADOKAWA

クラスになじめない転校生・要に親切に接する委員長・滯。しかし、そんな彼女に要は不審な態度で迫る。ヤバイ行動を繰り返す要に恐怖を覚えた滯は憧れの先輩・神原に助けを求めるが-。『小説野性時代』連載を単行本化。

産経新聞 2021/11/28

2021:10./ 413p

978-4-04-111731-6

¥1,870〔税込〕



旅のない

上田 岳弘 著

講談社

10歳と6歳のボーイズは、亀甲柄と市松模様のマスクでやって来た。弟の息子たちを預かることになった夫婦を描いた「ボーイズ」など、コロナ禍中の日々を映す4つのストーリーを収録した短篇集。『群像』掲載を単行本化。

産経新聞 2021/11/28

2021:9./ 173p

978-4-06-524709-9

¥1,650〔税込〕



「海の民」の日本神話〜古代ヤポネシア表通りをゆく〜(新潮選書)

三浦 佑之 著

新潮社

出雲・筑紫、若狭・能登、そして諏訪。「古事記」「日本書紀」等の文献や考古学・人類学なども含めた最新の研究から、ヤマトに制圧される以前の「ヤポネシア」の表通りに息づいていた人々の姿を追う。

産経新聞 2021/11/28

2021:9./ 253p

978-4-10-603872-3

¥1,595〔税込〕





妄想浪費

小山薫堂 著

光文社

お金を生き金にするのも、死に金にするのも、使い方次第。トップクリエイターが「これからの時代」の素敵なお金の使い方を妄想する。『Forbes JAPAN』『News Picks』掲載をもとに加筆修正し単行本化。

産経新聞 2021/11/28

2021:10./ 221p
978-4-334-95262-4

¥1,760〔税込〕



日本に生きる君へ〜未来を拓く「気づき」という贈り物〜

大西 秀憲 著

幻冬舎メディアコンサルティング

日本人の誇りを取り戻せ! 45歳で起業し、売上20億円のメーカーに育てた著者が、誰も教えない大人の常識や本来の日本人の良さなどを次代・次々代を担う人達に分かりやすく語る。テクノスジャパン HP 掲載コラムを書籍化。

産経新聞 2021/11/28

2021:8./ 212p
978-4-344-93247-0

¥1,540〔税込〕



みんな政治でバカになる

綿野恵太 著

晶文社

「バカの連鎖」から抜け出すには? 認知科学の「二重過程理論」をもとに、フェイクニュースや陰謀論など、今世界で起きている対立や混乱の図式を描き出し、進化心理学、認知科学の知見に基づいてその脱出口を探る。

産経新聞 2021/11/28

2021:9./ 254p
978-4-7949-7275-0

¥1,870〔税込〕



世界の動きとつなげて学ぶ日本国防史

宗像 久男 著

並木書房

なぜ日本は江戸、明治、大正時代を経て激動の昭和を経験せざるを得なかったのか? 自衛官として半生を送った著者が、世界の動きと関連づけながら日本の国防史を振り返る。自衛隊家族会の防衛情報紙等連載を書籍化。

産経新聞 2021/11/28

2021:10./ 379p
978-4-89063-413-2

¥2,200〔税込〕



逡巡の二十秒と悔恨の二十年(角川ホラー文庫 こ 2-16)

小林 泰三 著

KADOKAWA

20年前、子供の頃のたった20秒の迷いが、川で一緒に遊んでいた幼馴染を見殺しにした。当時の「記憶」は次第に「現在」を崩壊させ始め…。表題作など全10編を収録した、小林泰三の単著未収録作品集。

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 336p
978-4-04-111993-8

¥748〔税込〕





自分を傷つけずにはいられない～自傷から回復するためのヒント～

松本 俊彦 著

講談社

あなたは、自傷している人のことを弱くてダメな人間だと勘違いしていませんか。自分を変えたい人へ、精神科医が、自傷をコントロールできるようになるうえで役立つ知識など、「診察室で伝えていること」を、やさしく語ります。

朝日新聞 2021/11/06

2015:2./ 269p
978-4-06-219316-0

¥1,650〔税込〕



偶然の聖地(講談社文庫 み 68-2)

宮内 悠介 著

講談社

地図がなく、検索でも見つからないイシュクト山。時空がかかった疾患により説明不能なバグが相次ぐ世界で、「偶然の聖地」目指す理由ありの4組の旅人たち…。ボーダーなき時代に、鬼才・宮内悠介が描く世界地図。

朝日新聞 2021/11/06

2021:9./ 367p
978-4-06-522340-6

¥836〔税込〕



図解・天気予報入門～ゲリラ豪雨や巨大台風をどう予測するのか～(ブルーバックス B-2181)

古川 武彦/大木 勇人 著

講談社

地球温暖化により年々増え続ける激甚災害に備えるため、ますます重要になってきた天気予報。「爆弾低気圧」等の天気予報用語はもちろん、精度を増す最新の気象予報技術など、気象のしくみと予報の科学を徹底解説する。

朝日新聞 2021/11/06

2021:9./ 278p
978-4-06-524682-5

¥1,210〔税込〕



独身偉人伝(新潮新書 925)

長山 靖生 著

新潮社

エリザベス1世、マザー・テレサ、ニュートン、カント、津田梅子、小津安二郎…。直接の子孫こそなくとも、偉大な事績を遺した「おひとりさま」19人の言行と信念から、本当の意味の「自分らしさ」とは何かを考える。

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 205p
978-4-10-610925-6

¥814〔税込〕



日本人にとってキリスト教とは何か～遠藤周作『深い河』から考える～(NHK出版新書 662)

若松 英輔 著

NHK出版

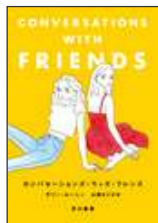
神とは、死とは、信仰とはなにか。汎神論の日本人が一神教のキリスト教徒になることは可能なのか。いま最も精力的な活動が続ける批評家が、遠藤文学の集大成「深い河」を軸に、日本的霊性とキリスト教の交点を見出す。

朝日新聞 2021/11/06

2021:9./ 254p
978-4-14-088662-5

¥968〔税込〕





カンバセーションズ・ウィズ・フレンズ

サリー・ルーニー 著

早川書房

フランシスはダブリンの学生で詩人。親友でかつてのガールフレンドのボビーと詩のパフォーマンスをする。2人はジャーナリストのメリッサと出会う。彼女の夫で俳優のニックに、フランシスは抗いようもなく惹かれていき...

朝日新聞 2021/11/06

2021.9./ 383p
978-4-15-209994-5

¥2,530〔税込〕



土になる

坂口 恭平 著

文藝春秋

今、僕は自分自身と完全に一つになったような気がする。坂口恭平によるコロナ禍の畑日誌にして、「つくる」を取り戻すための実践的哲学書。巻頭に自身が描いた絵も掲載する。

朝日新聞 2021/11/06

2021.9./ 270p 図版
18p
978-4-16-391428-2

¥1,870〔税込〕



嫌われた監督～落合博満は中日をどう変えたのか～

鈴木 忠平 著

文藝春秋

中日監督時代の8年間、落合博満は勝ち続けながらもなぜ嫌われたのか。異端の将の影響で人生を激変させた12人の男たちの目を通して綴られる、落合博満の実像と中日ドラゴンズ変貌の記録。『週刊文春』連載に加筆修正。

朝日新聞 2021/11/06

2021.9./ 476p
978-4-16-391441-1

¥2,090〔税込〕



TAKE NOTES!～メモで、あなただけのアウトプットが自然にできるようになる～

ズンク・アーレンス 著

日経B P社

58冊の本と数百本の論文を執筆した社会学者ニクラス・ルーマン。彼は、これだけのアウトプットをどうやって成し遂げたのか？ルーマンが編み出したメモ術「ツェッテルカステン」を紹介する。

朝日新聞 2021/11/06

2021.10./ 279p
978-4-296-00041-8

¥1,870〔税込〕



世界一やさしい依存症入門～やめられないのは誰かのせい？～(14歳の世渡り術)

松本 俊彦 著

河出書房新社

人はどうしてハマるのか、その背景には何があるのか、どうすれば立ち直れるのか。専門医が、中高生の事例とともに、依存のしくみや、依存症とのつきあい方を紹介。具体的なアドバイスや情報も盛り込む。

朝日新聞 2021/11/06

2021.8./ 232p
978-4-309-61734-3

¥1,562〔税込〕





星詠師の記憶(光文社文庫 あ 65-2)

阿津川辰海 著

光文社

長期休暇中に山間の寒村を訪れた警視庁刑事・獅堂は、香島と名乗る少年に出会う。紫水晶を使った未来予知の研究会の一員である香島は、会内で起こった殺人事件の真相を探してほしいという。調査を始める獅堂だったが...

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 460p
978-4-334-79256-5

¥902〔税込〕



素晴らしいお菓子缶の世界

中田ぶう 著

光文社

工業用品でありながら、美しさと緻密さで人の心を奪うお菓子の缶。レアなお菓子缶からアート缶、定番缶、憧れの外国のお菓子の缶まで、そのひとつひとつが持つ歴史とストーリーを深掘りした、“缶マニア”による偏愛カタログ。

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 143p
978-4-334-95275-4

¥1,760〔税込〕



絶滅危惧動作図鑑

藪本晶子 著

祥伝社

チャンネルを回す、黒電話をかける、携帯の電波を探す、カメラのフィルムを巻く...。時代とともに消えていくであろう「動作」を、「絶滅危惧レベル」順にイラストで解説する。みうらじゅんとの対談も収録。

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 131p
978-4-396-63613-5

¥1,100〔税込〕



戸籍と無戸籍～「日本人」の輪郭～

遠藤 正敬 著

人文書院

近代日本において無戸籍者の存在は、政治・社会問題であり、国際問題でもあった。現代では家族生活の多様化に伴い、戸籍の必要性そのものが問われている。無戸籍者の歴史の変遷を辿り「日本人」の輪郭を改めて捉え返す。

朝日新聞 2021/11/06

2017:5./ 380p
978-4-409-24117-2

¥4,620〔税込〕



薬物依存症(ちくま新書 1333-4)

松本 俊彦 著

筑摩書房

薬物問題は自己責任論では解決にならない。痛みを抱え孤立した「人」に向き合い、つながる機会を提供する治療・支援こそが必要なのだ。医療、そして社会はどのようにあるべきか。薬物依存症を通して探求し、提示する。

朝日新聞 2021/11/06

2018:9./ 350p
978-4-480-07172-9

¥1,100〔税込〕





「日本」ってどんな国?〜国際比較データで社会が見えてくる〜(ちくまプリマ新書 386)

本田 由紀 著

筑摩書房

今まで「あたりまえ」と思い込んでいたことが、実は「変」だったかも!? 家族、ジェンダー、学校、友人、経済・仕事、政治・社会運動といった日本社会のさまざまな面を世界各国のデータと比べ、日本の特徴をあぶり出す。

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 271p
978-4-480-68412-7

¥1,012〔税込〕



勤勉革命〜資本主義を生んだ 17 世紀の消費行動〜

ヤン・ド・フリース 著

筑摩書房

産業革命は、暮らしの質を高めようと西洋の各世帯内で行われた労働力の再配置と、消費内容の見直し=「勤勉革命」が引き起こした。世界経済史研究の画期を初邦訳。

朝日新聞 2021/11/06

2021:3./ 8p,438p
978-4-480-86137-5

¥4,400〔税込〕



日本語文章チェック事典

石黒 圭 編

東京堂出版

レポート、ビジネス文書、メールなどの文章をセルフ・チェック出来る事典。文字遣いから、言葉選び、文の組み立て、全体構成、レトリックまで、目的やポイント、用例の BEFORE→AFTER を確認しながら解説する。

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 390p
978-4-490-10925-2

¥1,980〔税込〕



監視資本主義〜人類の未来を賭けた闘い〜

ショシャナ・ズボフ 著

東洋経済新報社

人間の経験を、密かな抽出・予測・販売からなる商業的慣行のための無料の原材料として要求する新たな経済秩序、監視資本主義。ハーバード・ビジネススクール名誉教授が、監視資本主義の起源や発展などについて解説する。

朝日新聞 2021/11/06

2021:6./
12p,606p,148p
978-4-492-50331-7

¥6,160〔税込〕



もしも「死にたい」と言われたら〜自殺リスクの評価と対応〜

松本 俊彦 著

中外医学社

「死にたい」という患者を前にして、医療従事者は何ができるのか。自殺企図、自殺未遂患者の自殺リスクをどう評価して、どう対応すべきなのか。難しいテーマに真っ向から取り組んだ著者が、これまでの経験と知識をもとに綴る。

朝日新聞 2021/11/06

2015:5./ 3p,133p
978-4-498-12974-0

¥2,200〔税込〕





世界の夜は僕のもの～Joyful days in mid 90s Tokyo!～

渋谷直角 著

扶桑社

レコードショップと「元ネタ」、『オリーブ』と裏原宿、『週刊朝日』と「ダウンタウン汁」…。東京の 90 年代を描いた懐かしく新しい青春漫画。漫画のテーマや時代を解説したコラムも掲載。『週刊 SPA!』連載を書籍化。

朝日新聞 2021/11/06

2021:9./ 250p
978-4-594-08954-2

¥1,320〔税込〕



資本主義だけ残った～世界を制するシステムの未来～

ブランコ・ミラノヴィッチ 著

みすず書房

21 世紀のグローバル化した資本主義の特徴が、格差と腐敗の拡大にあることを喝破。また、その拡大のメカニズムを、米国に代表されるリベラル能力資本主義と、中国に代表される政治的資本主義の 2 つの体制ごとに解き明かす。

朝日新聞 2021/11/06

2021:6./ 289p,49p
978-4-622-09003-8

¥3,960〔税込〕



ホロコースト最年少生存者たち～100 人の物語からたどるその後の生活～

レベッカ クリフォード 著

柏書房

記憶も、本当の名前も、家族に対する愛着も持ち得なかった者が、「自分の人生」を取り戻すことは可能か。かつて「幸運」とされた 10 歳以下のホロコースト生存者たちの戦後を、10 カ国以上の史料とインタビューをもとに描く。

朝日新聞 2021/11/06

2021:8./ 429p 図版
12p
978-4-7601-5391-6

¥3,080〔税込〕



The Current～北澤平祐作品集～

北澤 平祐 著

玄光社

「フランス」の包装紙や、「キャラメルゴーストハウス」のビジュアル等を手がけ、活躍の場をひろげるイラストレーター北澤平祐の初画集。個展で発表した作品や書籍の装画など、200 点以上の作品を収録する。

朝日新聞 2021/11/06

2021:8./ 213p
978-4-7683-1530-9

¥3,300〔税込〕



東京ヴァナキュラー～モニュメントなき都市の歴史と記憶～

ジョルダン・サンド 著

新曜社

日常にありふれたモノや生活空間<ヴァナキュラーなもの>が、その都市の歴史を語り出す。広場、地域雑誌、路上の<逸脱する財産>などから読み解く新たな都市論、反モニュメンタリズム実践の記録集。

朝日新聞 2021/11/06

2021:9./ 8p,281p
978-4-7885-1738-7

¥3,960〔税込〕





犬神家の戸籍～「血」と「家」の近代日本～

遠藤正敬 著

青土社

犬神家を襲った怪奇な連続殺人事件の背景とは？横溝作品「犬神家の一族」を取り上げ、一族の系譜を丁寧にたどりながら、社会に根強く残る「血」や「家」の秩序と価値観を炙り出し、近代日本の陰に光をあてる。

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 220p,2p
978-4-7917-7395-4

¥1,980〔税込〕



性差(ジェンダー)の日本史～新書版～(インターナショナル新書 083)

「性差の日本史」展示プロジェクト 編

集英社インターナショナル

日本で「男」と「女」という区分はいつ生まれたのか？日本の社会の中でジェンダーはどのような意味を持ち、どう変化してきたのか？豊富な資料を通して考える。国立歴史民俗博物館の展覧会をもとに書籍化。

朝日新聞 2021/11/06

2021:10./ 221p
978-4-7976-8083-6

¥924〔税込〕



孤独な窺視者の夢想～日本近代文学のぞきからくり～

谷川渥 著

月曜社

夏目漱石、高村光太郎、森?外、江戸川乱歩…。西洋美術の視覚的イメージに触発された日本近代文学の巨匠たちの作品から、<窺視>としての<見ること>の諸相を、個々の文学作品に即して分析する。

朝日新聞 2021/11/06

2021:9./ 269p
978-4-86503-120-1

¥2,860〔税込〕



戦争とバスタード

安田 浩一／金井 真紀 著

亜紀書房

ジャングルの露天風呂、お寺の寸胴風呂、無人島の大浴場…。至福の時間が流れる癒しのむこう側には、かつて日本が遺した戦争の爪痕と過酷な歴史があった。戦争で被害と被害の交差点となった温泉や銭湯を訪ねた社会派ゆる紀行。

朝日新聞 2021/11/06、東京・中日新聞 2021/11/07

2021:9./ 373p
978-4-7505-1710-0

¥1,870〔税込〕



差別はたいい悪意のない人がする～見えない排除に気づくための10章～

キム ジヘ 著

大月書店

差別を差別として認識できない「悪意なき差別主義者」はいかにつくられるのか、どのように差別が不可視化され「正当な差別」として偽装されるのかを考察。そして、差別にどう向き合うかを検討する。

朝日新聞 2021/11/06、東京・中日新聞 2021/11/28

2021:8./ 245p,10p
978-4-272-33103-1

¥1,760〔税込〕





原敬～「平民宰相」の虚像と実像～(中公新書 2660)

清水 唯一朗 著

中央公論新社

初の「平民」首相として、本格的政党内閣を率いた原敬。米騒動など民意高揚下、藩閥と時に敵対、時に妥協し改革を主導するも、首相就任後、改革途上で凶刃に倒れた。大衆迎合と一線を画した現実主義者の軌跡とその真意を描く。

朝日新聞 2021/11/06、毎日新聞 2021/11/27

2021:9./ 5p,324p
978-4-12-102660-6

¥990〔税込〕



寒気氾濫～歌集～(現代短歌クラシックス 08)

渡辺松男 著

書肆侃侃房

橋として身をなげだしているものへ秋分の日雲の影過ぐ ささやきのごとくに若葉揺れあいて樹々の秘密はあかるかりけり ほんとうは迷えもしない人生をひととき巨大迷路に遊ぶ 素朴に度ましく天真爛漫な作品をまとめた歌集。

朝日新聞 2021/11/07

2021:9./ 165p
978-4-86385-482-6

¥1,760〔税込〕



眠れるラプンツェル(角川文庫)

山本 文緒／片岡 忠彦 著

角川書店

主婦というよろいをまとい、ラプンツェルのように塔に閉じこめられた私。28歳・汐美の平凡な主婦生活。子供はなく、夫は不在。ある日、ゲームセンターで助けた隣の12歳の少年と突然、恋に落ちた――。

朝日新聞 2021/11/13

2006:6./ 297p
978-4-04-197013-3

¥660〔税込〕



すごすぎる天気図鑑～空のふしぎがすべてわかる!～

荒木 健太郎 著

KADOKAWA

雲ができるのは空気が汚れているから？花粉で空が虹色になる？雷はどこに落ちる？空や雲、天気に関わる疑問を取り上げてわかりやすく解説。天気について知っておくと便利なことや、思わず納得する知識も紹介する。

朝日新聞 2021/11/13

2021:4./ 175p
978-4-04-605151-6

¥1,375〔税込〕



黙殺～報じられない“無頼系独立候補”たちの戦い～(集英社文庫 は 51-1)

畠山 理仁 著

集英社

メディアに取り上げられないまま選挙に敗れた「無頼系独立候補」。何度敗れても、また新たな選挙に挑む底抜けに明るい候補者たちの戦いをまとめる。単行本刊行後のマック赤坂や、N国・立花孝志を追ったあとがきを追加。

朝日新聞 2021/11/13

2019:11./ 374p
978-4-08-744049-2

¥858〔税込〕





コロナ時代の選挙漫遊記

畠山 理仁 著
集英社

2020年3月の熊本県知事選挙から、2021年8月の横浜市長選挙まで、コロナ禍に行われた全国15の注目選挙を現地取材したルポエッセイ。webメディア『よみタイ』連載からセレクトし加筆修正して書籍化。

朝日新聞 2021/11/13

2021.10./ 303p
978-4-08-788067-0
¥1,760〔税込〕



私はいったい、何と闘っているのか(小学館文庫 つ13-1)

つぶやき シロー 著
小学館

伊澤春男、45歳。スーパー勤務。一見平凡な日常は、きょうも彼の脳内で戦場と化する。つぶやき芸の極北に行く著者が、七転八倒中年男のサバイバル人生劇場を描く。2021年12月公開映画の原作。

朝日新聞 2021/11/13

2021.11./ 349p
978-4-09-407082-8
¥792〔税込〕



貧者を喰らう国～中国格差社会からの警告～ 増補新版(新潮選書)

阿古 智子 著
新潮社

中国建国65周年、共産主義の理想は、なぜ歪んだ弱肉強食の社会を生み出したのか。中国社会の暗部に深く踏み込んだ研究者による衝撃レポート。新章「ネット民主主義の行方」「公共圏は作れるのか」を加筆した増補新版。

朝日新聞 2021/11/13

2014.9./ 255p
978-4-10-603757-3
¥1,430〔税込〕



死、欲望、人形～評伝ハンス・ベルメール～

ピーター・ウェプ／ロバート・ショート 著
国書刊行会

権威への反逆、フランスへの亡命、収容所生活…。「呪われた芸術家」はいかにして暴力的なまでの「肉体のアナグラム」を懐胎したのか。快楽の彼方にエロスとタナトスの合一を夢見た造形作家ベルメールの、不屈の生涯を綴る。

朝日新聞 2021/11/13

2021.8./ 402p, 25p 図
版 16p
978-4-336-07225-2
¥4,950〔税込〕



5時過ぎランチ(実業之日本社文庫 は12-1)

羽田 圭介 著
実業之日本社

ヤクザの車に血痕を見つけたガソリンスタンドの女性アルバイト、小麦アレルギー持ちの殺し屋、国家権力を敵に回した女性編集者…。食べるための仕事に従事することで、食べる暇もなくなっている男女を描く、3つの物語。

朝日新聞 2021/11/13

2021.10./ 265p
978-4-408-55698-7
¥759〔税込〕





中国は“中国”なのか～「宅兹中国」のイメージと現実～(東方学術翻訳叢書)

葛兆光 著

東方書店

様々なイメージが投影され、膨張し続けている「中国」という言葉。「中国イメージ」について、膨大な資料より歴史的叙述及び周辺地域の視点とその交流史から描き出し、多面的な「中国」理解に対する一つの方向性を提示する。

朝日新聞 2021/11/13

2021:2./ 15p,366p
978-4-497-22014-1

¥5,500〔税込〕



マルクス主義 改訳(文庫クセジュ)

アンリ・ルフェーヴル、竹内良知 著

白水社

朝日新聞 2021/11/13

1991:6./ 144p
978-4-560-05025-5

¥1,046〔税込〕



現象学(文庫クセジュ)

ジャン・フランソワ・リオタール、高橋允昭 著

白水社

朝日新聞 2021/11/13

1989:2./ 147,5p
978-4-560-05374-4

¥1,046〔税込〕



100語でわかるワイン(文庫クセジュ)

ジェラルド・マルジョン、守谷 てるみ 著

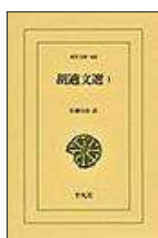
白水社

真にワインを楽しむためのすぐれた手引書。アラン・デュカスのシェフ・ソムリエが、ワインの造り方、取り扱い方、取引や歴史、味わい方に関する用語をまとめて、わかりやすく解説する。

朝日新聞 2021/11/13

2010:5./ 161p
978-4-560-50947-0

¥1,320〔税込〕



胡適文選<1>(東洋文庫 905)

胡 適 著

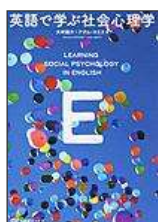
平凡社

中国の新文化運動の指導者の一人、胡適が、自身の思想と学問方法を最もよく理解できる文章を自選。1 は、思想の哲学的基礎をはじめ、人生観や中国と西洋の文化を論じたものなどを収録。

朝日新聞 2021/11/13

2021:9./ 350p
978-4-582-80905-3

¥3,740〔税込〕



英語で学ぶ社会心理学(有斐閣ブックス 699)

大坪 庸介、アダム・スミス 著

有斐閣

社会心理学の基礎理論が英語で学べるテキスト。英語論文なんてムリと敬遠している人に向けて、左ページに英文、右ページに日本語の見開き 2 ページの読み切りでコンパクトに解説。

朝日新聞 2021/11/13

2017:12./ 12p,152p
978-4-641-18436-7

¥2,640〔税込〕





中国料理と近現代日本～食と嗜好の文化交流史～(慶應義塾大学東アジア研究所叢書)

岩間 一弘 著

慶應義塾大学出版会

ユニークに発展した日本の中国料理の特色を、歴史学・文化人類学などの観点から浮き彫りにし、さらに中国料理を通して見える東アジアの多様な文化交流とその社会的背景の変容を明らかにする。

朝日新聞 2021/11/13

2019:12./ 5p,381p
978-4-7664-2643-4

¥5,720〔税込〕



重要証人～ウイグルの強制収容所を逃れて～

サイラグル・サウトバイ／アレクサンドラ・カヴェーリウス 著

草思社

繰り返される拷問、洗脳、レイプ。そしてその先に待ち受ける死…。いま、中国の新疆ウイグル自治区では何が行われているのか？ 命がけで強制収容所から逃れた女性が、衝撃的な実態を証言する。

朝日新聞 2021/11/13

2021:8./ 348p 図版
12p
978-4-7942-2526-9

¥2,200〔税込〕



二重に差別される女たち～ないことにされているブラック・ウーマンのフェミニズム～

ミッキー・ケンドール 著

DU BOOKS

主流の白人フェミニストが提唱する「シスターフッド」に対して、BLMの時代、「ブラック・フェミニズム」からの切なる訴えとは。アフリカ系女性作家が、「白人高学歴女性による主流派のフェミニズム」の偽善を鋭く指摘する。

朝日新聞 2021/11/13

2021:8./ 333p
978-4-86647-150-1

¥3,080〔税込〕



立花隆 長崎を語る～長崎が生んだ「知の巨人」～

長崎文献社編集部 編

立花隆 著

長崎文献社

稀代のジャーナリストであり思想家でもあった立花隆。立花隆が自身の原点である「長崎」について語った講演録のほか、吉田文彦や山中賢一らが綴る立花隆の実像、立花隆の家族史などを収録する。

朝日新聞 2021/11/13

2021:9./ 235p
978-4-88851-366-1

¥1,430〔税込〕



私の西域、君の東トルキスタン

王 力雄、馬場 裕之、劉 燕子 著

集広舎

2010年ノーベル平和賞受賞者・劉暁波の畏友であり、中国民主化の鍵をにぎる著者が、「国家機密窃取」の容疑による入獄の困難を乗り越え、9年の歳月をかけて新疆ウイグル人の内心と社会を明らかにした書。

朝日新聞 2021/11/13

2011:1./ 470p
978-4-904213-11-7

¥3,652〔税込〕





公害スタディーズ～悶え、哀しみ、闘い、語りつぐ～

安藤 聡彦／林 美帆／丹野 春香 著

ころから

水俣病、アスベスト、福島原発事故…。日本の公害 13 例を独自の視点でカテゴライズし、公害をめぐるさまざまな立場からの語りを紹介。また、公害という見えにくい出来事を捉え、探究していくためには何が必要なのかを考える。

朝日新聞 2021/11/13

2021:10./ 219p
978-4-907239-54-1

¥1,980〔税込〕



仲直りの理～進化心理学から見た機能とメカニズム～

大坪庸介 著

ちとせプレス

ヒト以外のさまざまな動物にもみられる「仲直り」。赦しと謝罪の 2 つの側面をもつ仲直りの機能とメカニズムを、進化生物学のモデル研究、動物行動学の研究、心理学の研究を駆使し、進化心理学の視点から読み解く。

朝日新聞 2021/11/13

2021:10./ 19p,277p
978-4-908736-21-6

¥2,750〔税込〕



香港あなたはどこへ向かうのか

阿古 智子 著

出版舎ジグ

かつて香港で暮らしていた著者はその日々を振り返り、旧友や師と再会した。暴力、沈黙、抵抗をどう思っているのか？ 隣り合う台湾の政治文化や、歴史を忘却する日本に生きる自身と重ね、問いの共有と対話のあり方を模索する。

朝日新聞 2021/11/13

2020:9./ 261p
978-4-909895-04-2

¥1,650〔税込〕



うちのレシピ(新潮文庫 た-133-1)

瀧羽 麻子 著

新潮社

小さなレストランを営む両親のもとに生まれた真衣。会社を辞めて店に入った啓太。ふたりの結婚は頑固一徹の料理人と仕事心の敏腕ビジネスウーマンを結びつけた。当然そこには摩擦も…。美味しさという魔法に満ちた 6 つの物語。

朝日新聞 2021/11/13、読売新聞 2021/11/14

2021:11./ 282p
978-4-10-103281-8

¥649〔税込〕



ジュリアン・パトラーの真実の生涯

川本 直 著

河出書房新社

アメリカを代表する作家、ジュリアン・パトラーの生涯は長きにわたって夥しい伝説的なゴシップの囂に包まれていた。しかし、2017 年、覆面作家による回想録が刊行され…。スキャンダラスに生きた恋人たちの生涯を描く。

朝日新聞 2021/11/13、読売新聞 2021/11/21

2021:9./ 396p
978-4-309-02983-2

¥2,475〔税込〕





その農地、私が買います～高橋さん家の次女の乱～

高橋久美子 著

ミシマ社

実家の畑が太陽光パネルに!? 農地は負の遺産と考える父親世代や足並みを揃えることを最優先する町の雰囲気と闘いを挑んだ、高橋家の次女の乱を綴る。『みんなのミシマガジン』連載に加筆修正、再構成して単行本化。

朝日新聞 2021/11/13、毎日新聞 2021/11/13、読売新聞 2021/11/14

2021:10./ 230p
978-4-909394-58-3

¥1,870〔税込〕



これがすべてを変える～資本主義 vs. 気候変動～<上>

ナオミ・クライン 著

岩波書店

人類の存続のかかる重大問題、気候変動の根本原因と解決法を探る。気候変動対策の遅れの原因について詳細に検証するとともに、化石燃料脱却を掲げる起業家の言行不一致や、化石燃料企業と結託する環境保護団体の偽善を暴く。

朝日新聞 2021/11/20

2017:8./
12p,309p,55p
978-4-00-022956-2

¥3,080〔税込〕



これがすべてを変える～資本主義 vs. 気候変動～<下>

ナオミ・クライン 著

岩波書店

人類の存続のかかる重大問題、気候変動の根本原因と解決法を探る。化石燃料を基盤にした経済・社会のあり方にノーを突きつける草の根抵抗運動が世界各地で展開し、拡大しつつあることを、綿密な現地取材に基づき報告する。

朝日新聞 2021/11/20

2017:8./ 8p,p311?629
77p
978-4-00-022957-9

¥2,970〔税込〕



ショック・ドクトリン～惨事便乗型資本主義の正体を暴く～<上>

ナオミ・クライン 著

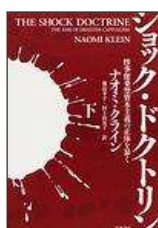
岩波書店

アメリカ政府とグローバル企業は、戦争、自然災害、政変などの危機につけこんで、あるいはそれを意識的に招いて、過激な経済改革を強行してきた。惨事便乗型資本主義=ショック・ドクトリンの全貌を暴く。

朝日新聞 2021/11/20

2011:9./ 8p,345p,46p
978-4-00-023493-1

¥2,860〔税込〕



ショック・ドクトリン～惨事便乗型資本主義の正体を暴く～<下>

ナオミ・クライン 著

岩波書店

大規模な民営化導入に災害や危機を利用するショック・ドクトリン。ソ連崩壊後のロシア、アパルトヘイト政策廃止後の南アフリカ、さらには最近のイラク戦争やアジアの津波災害などを通し、ショック・ドクトリンの全貌を暴く。

朝日新聞 2021/11/20

2011:9./ 8p,p357～
686,66p
978-4-00-023494-8

¥2,750〔税込〕





グリーン・ニューディール～世界を動かすガバニング・アジェンダ～(岩波新書 新赤版 1882)

明日香 壽川 著

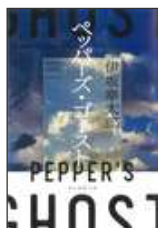
岩波書店

「2050年カーボンニュートラル」実現のための鍵を握るグリーン・ニューディール。それが生まれた背景となる気候変動の科学と政治に関する議論や出来事を振り返り、各国および日本のグリーン・ニューディール案を紹介する。

朝日新聞 2021/11/20

2021:6./ 4p,260p,4p
978-4-00-431882-8

¥946〔税込〕



ペッパーズ・ゴースト

伊坂幸太郎 著

朝日新聞出版

中学国語教師の檀は、ある条件下で他人の明日が少しだけ見える特殊能力を持つ。彼は生徒から、奇妙なコンビが暴れ回る小説原稿を渡される。小説内の2人組「ネコジコハンター」とは？エンターテインメント長編。

朝日新聞 2021/11/20

2021:10./ 387p
978-4-02-251792-0

¥1,870〔税込〕



津軽 改版(角川文庫 た 1-8)

太宰 治 著

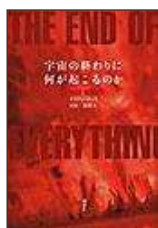
KADOKAWA

昭和19年、津軽風土記の執筆を依頼され、3週間にわたって津軽半島を一周した太宰治。自己を見つめ直し、宿命の地・津軽への思いを素直に綴った名紀行文。町田康による解説も収録する。

朝日新聞 2021/11/20

2018:6./ 218p
978-4-04-106794-9

¥572〔税込〕



宇宙の終わりに何が起こるのか

ケイティ・マック 著

講談社

この宇宙はどうやって終わるのか？ビッグクランチ(収縮して潰れる)、熱的死(膨張してあらゆる活動が停止する)、ビッグリップ(急激に膨張してズタズタになる)…。最新理論が予言する、5つの宇宙終焉シナリオを紹介。

朝日新聞 2021/11/20

2021:9./ 365p
978-4-06-517479-1

¥1,980〔税込〕



山中教授、同級生の小児脳科学者と子育てを語る(講談社+α新書 770-2C)

山中 伸弥／成田 奈緒子 著

講談社

自分はどう育てられたか？わが子をどう育てたか？今の時代、子育てに大切なことは何なのか？ノーベル賞博士・山中伸弥が、大学の同級生の小児脳科学者・成田奈緒子と語り合い、新しい時代の「子育ての極意」を考える。

朝日新聞 2021/11/20

2021:10./ 200p
978-4-06-525912-2

¥990〔税込〕





義時 運命の輪(集英社文庫 お 83-5)

奥山 景布子 著

集英社

権力者の死、仲間の叛乱、数々の権謀術数、そして、叶わぬ恋-。鎌倉幕府第二代執権・北条義時の半生を、静謐な熱を込めた筆致でドラマチックに描いた書き下ろし歴史小説。

朝日新聞 2021/11/20

2021:11./ 315p
978-4-08-744322-6

¥704〔税込〕



方丈の孤月～鴨長明伝～(新潮文庫 あ-91-4)

梓澤 要 著

新潮社

下鴨神社の神職の家に生まれながらも、不運と挫折の連続。やがて歌の才が認められ「新古今和歌集」に入撰したのだが…。世の無常と生きる意味を見つめ続けた鴨長明の、不器用で人間くさい生涯を描きだす。

朝日新聞 2021/11/20

2021:11./ 398p
978-4-10-121184-8

¥781〔税込〕



楽しい孤独～小林一茶はなぜ辞世の句を詠まなかったのか～(中公新書ラクレ 746)

大谷 弘至 著

中央公論新社

世間という荒波の中でどのように暮らしていけばよいのか。苦難を越えて生き抜いた小林一茶の生涯をたどり、彼が遺した俳句を味わいながら、生きるヒントを探る。“人生という旅”を楽しむためのガイドブック。

朝日新聞 2021/11/20

2021:11./ 285p
978-4-12-150746-4

¥990〔税込〕



竹ノ御所鞠子 改版(中公文庫 す 3-31)

杉本 苑子 著

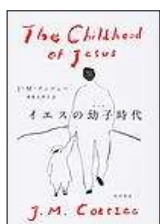
中央公論新社

鎌倉幕府二代将軍・源頼家の子として生まれ、人里離れた竹ノ御所で美しく成長していく姫・鞠子。異母兄弟が政争に巻き込まれ命を散らすなか、女であるがゆえに難を逃れたと思われたが…。悲運の姫の数奇な運命を描く。

朝日新聞 2021/11/20

2021:11./ 261p
978-4-12-207139-1

¥946〔税込〕



イエスの幼子時代

J.M. クツツエー、鴻巣 友季子 著

早川書房

母と生き別れた少年の面倒を見ることになった初老の男。彼らが向かうのは過去を捨てた人々が暮らす街。男も新たな名前と経歴を得て、ひとりで気ままに生きるはずだったが…。人と人とのつながりをアイロニカルに問う長篇。

朝日新聞 2021/11/20

2016:6./ 374p
978-4-15-209620-3

¥2,530〔税込〕





病める惑星より愛をこめて 1(ボニータ・コミックス)

本田 著

秋田書店

異星人から提供された、超強力な癒やしを宿主に与える“もふもふ”こと特殊臨床慰謝体（とくしゅりんしょういしゃたい）と共存するこの惑星の人々は自殺が日常茶飯事。この奇妙な世界で生きる人々のドラマとは。

朝日新聞 2021/11/20

2021:8.
978-4-253-26531-7

¥660〔税込〕



* 9 7 8 4 2 5 3 2 6 5 3 1 7 *



板目・柾目・木口がわかる木の図鑑～日本の有用種 101～

西川 栄明 著

創元社

日本の有用種である木 101 種の「板目材」「柾目材」「丸太を輪切りにした状態の木口面」「樹皮」等の写真を掲載。木の特徴や用途、木口面にみられる道管の大きさや並び方、材面に現れる杢などを解説する。

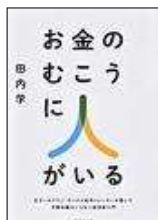
朝日新聞 2021/11/20

2021:9./ 224p
978-4-422-44032-3

¥3,740〔税込〕



* 9 7 8 4 4 2 2 4 4 0 3 2 3 *



お金のむこうに人がいる～元ゴールドマン・サックス金利トレーダーが書いた予備知識のいらない経済新入門～

田内学 著

ダイヤモンド社

経済の主役は、言うまでもなく人だ。人を中心に経済を考えれば、経済を直感的に捉えることができる。元ゴールドマン・サックス金利トレーダーが、専門用語なしでやさしく書いた経済の入門書。

朝日新聞 2021/11/20

2021:9./ 271p
978-4-478-11372-1

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 4 7 8 1 1 3 7 2 1 *



まんが訳稲生物怪録(ちくま新書 1604)

山本 忠宏 編

筑摩書房

コマを割って絵巻物がまんがに! 比熊山にある天狗杉に触れると物怪の祟りがあるという。武家の子息、平太郎は肝試しのためその山に入るが…。江戸時代の妖怪絵巻「稲生物怪録」をまんが訳。木場貴俊らによる解説付き。

朝日新聞 2021/11/20

2021:10./ 222p
978-4-480-07435-5

¥1,078〔税込〕



* 9 7 8 4 4 8 0 0 7 4 3 5 5 *



温暖化の〈発見〉とは何か

スペンサー・R・ワート 著

みすず書房

地球温暖化の科学史をたどりなおす試み。温暖化研究の基石となった科学的事件の多くを、研究者たちの苦心や興奮とともに紹介する。地球温暖化の歴史を公平な視点で要約した信頼できる科学史。

朝日新聞 2021/11/20

2005:3./ 262,21p
978-4-622-07134-1

¥3,080〔税込〕



* 9 7 8 4 6 2 2 0 7 1 3 4 1 *



山小屋クライシス～国立公園の未来に向けて～(ヤマケイ新書 YS061)

吉田 智彦 著

山と溪谷社

山になくてはならない山小屋に今、迫っている危機とは。ヘリコプター、トイレなど各問題に造詣の深いエキスパートの意見を聞きながら、現在の管理・運営システムの問題点や、国立公園が発展していくべき方向などを考える。

朝日新聞 2021/11/20

2021.9./ 187p
978-4-635-51063-9

¥990〔税込〕



谷崎潤一郎をめぐる人々と着物～事実も小説も奇なり～

中村圭子／中川春香 著

東京美術

小説家・谷崎潤一郎の生涯と文学を、モデルになった人々とそのゆかりの着物を軸に紹介。作品の登場人物の装いを再現したアンティーク着物も掲載。弥生美術館開催(2021年10月?2022年1月)の展覧会図録兼用書籍。

朝日新聞 2021/11/20

2021.10./ 119p
978-4-8087-1227-3

¥2,530〔税込〕



沖縄と色川大吉

三木健 編

色川大吉 著

不二出版

民衆史の提唱者・色川大吉が沖縄の民衆精神の鉱脈を掘り起こし、提起し続けてきた多年に及ぶ沖縄論と、沖縄の気鋭の論者たち10人による色川大吉についての論考を併録する。

朝日新聞 2021/11/20

2021.9./ 5p,344p
978-4-8350-8474-9

¥2,530〔税込〕



さよたんていのおなやみ相談室

さよたんてい 著

びあ

家族や人間関係、職場や仕事、恋愛、日々の生活などに関する様々な悩みを、小学生の女の子、「さよたんてい」が優しく受け止めたり、軽々しく流したり。思わず笑えて、ときどきハッとさせられる、驚きの名回答が満載。

朝日新聞 2021/11/20

2021.9./ 255p
978-4-8356-4632-9

¥1,479〔税込〕



波の地図

原田佳夏 著

雷鳥社

海の波の名前、文様化された波、生活の中でたとえられている波、物理の波動、全国に散らばる波の名…。多彩なイラストと言葉で、知っているようで知らなかった「波」の森羅万象を楽しむ本。

朝日新聞 2021/11/20

2021.10./ 317p
978-4-8441-3781-8

¥1,650〔税込〕





シミュレート・ジ・アース～未来を予測する地球科学～

河宮 未知生 著

ベレ出版

数日後の天気、100年後の世界の気候、いつか襲ってくる地震や火山の噴火…。コンピュータを使ったシミュレーションで、未来はどこまでわかるのか。地球の未来を予測する地球科学の最前線を丁寧に解説する。

朝日新聞 2021/11/20

2018:10./ 263p
978-4-86064-562-5

¥1,870〔税込〕



段ボールで作る!動く、飛ぶ、遊ぶ工作～身近な材料で学ぶエンジニアリング～(Make:KIDS)

Jonathan Adolph 著

オライリー・ジャパン

ロボットハンド、ミサイルヘリコプター、空気砲、ビー玉コースター…。段ボール、厚紙、トイレットペーパーの芯などを材料にした23の作例を紹介。工作しながらエンジニアリングを学べる。型紙付き。

朝日新聞 2021/11/20

2021:9./ 180p
978-4-87311-964-9

¥2,420〔税込〕



話し足りなかった日

イ・ラン 著

リトル・モア

お金、労働、ステージ、女、友人、新しい世代…。「芸術製造業者」と自称し、あらゆる境界線を消して、ひたすら話し、ひたすら歌い、記憶していく。韓日のカルチャーシーンで煌めく多才なアーティスト、イ・ランのエッセイ。

朝日新聞 2021/11/20

2021:10./ 245p
978-4-89815-546-2

¥1,980〔税込〕



民俗的歴史論へ向けて(やまかわうみ叢書)

川島秀一 編

アーツアンドクラフツ

都市や妖怪、災害、差別など独自の民俗学を展開した宮田登。1970年代以降、歴史学と民俗学の双方に目配りした宮田の論考・エッセイを収録する。著書一覧付き。

朝日新聞 2021/11/20

2021:10./ 243p
978-4-908028-65-6

¥2,860〔税込〕



幕末大江戸のおまわりさん～史料が語る新徴組～(日本史史料研究会ブックス006)

西脇 康 著

文学通信

江戸幕府が文久2年に募集した「浪士組」に集まった志士たちは、江戸の治安維持に従事する「新徴組」と、京都に残留した少数の「新選組」に分かれた-。「おまわりさん」の起源とされる「新徴組」について、史料を基に語る。

朝日新聞 2021/11/20

2021:10./ 236p
978-4-909658-65-4

¥1,650〔税込〕





100 万回死んだねこ〜覚え違いタイトル集〜

福井県立図書館 著

講談社

「衝撃の巨人」→「進撃の巨人」、「100 万回死んだねこ」→「100 万回生きたねこ」
…。図書館の利用者がうっかり覚え違った本のタイトルから、司書が正しいタイトル
を導き出した事例集。本の情報、司書の仕事も紹介。

朝日新聞 2021/11/20、毎日新聞 2021/11/20

2021:10./ 189p
978-4-06-525892-7

¥1,320〔税込〕



クアドラプルプレイ〜両吟歌集〜

蝦名泰洋／野樹かずみ 著

書肆侃侃房

背景の夜空がふいに明るんで君の笑顔にかわる流星(泰洋) 次々とすべり台から降りて
くるふしぎ座流星群の星たち(かずみ) 蝦名泰洋と野樹かずみが一首ずつ交代で詠んだ
両吟歌集。1992?2020 年の作品を収録する。

朝日新聞 2021/11/21

2021:9./ 160p
978-4-86385-479-6

¥1,650〔税込〕



タフィー(STAMP BOOKS)

サラ・クロッサン 著

岩波書店

父さんの暴力から逃れ、家を出たアリソン。古い家の納屋に身を隠すが、家主のマー
ラという老女に見つかってしまう。認知症のマーラは、彼女を昔の友人と間違えている
ようで…。ふたりで暮らした日々を描く、再生の詩物語。

朝日新聞 2021/11/24

2021:10./ 412p
978-4-00-116423-7

¥2,310〔税込〕



らんたん

柚木 麻子 著

小学館

大正最後の年。一色帛児は、渡辺ゆりにプロポーズした。彼女からの承諾の条件は、
シスターフッドの契りを結ぶ河井道と 3 人で暮らすというもので…。『きらら』
『WEB きらら』連載を加筆し、書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2021/11/24

2021:11./ 497p
978-4-09-386624-8

¥1,980〔税込〕



立ちどまらない少女たち〜<少女マンガ>的想像力のゆくえ〜

大串尚代 著

松柏社

アメリカ文学と日本の少女マンガの接点を探りつつ、「アメリカ」という場所が、日
本の少女マンガでどのように表象されてきたかをたどる。また、個別の作品を取り上
げ、少女マンガが文化受容の重要な媒体であることを考察する。

朝日新聞 2021/11/24

2021:10./ 259p
978-4-7754-0282-5

¥2,750〔税込〕





優しい語り手〜ノーベル文学賞記念講演〜

オルガ・トカルチュク 著

岩波書店

?や憎しみにあふれた情報の断片を優しさによってつなげ、神話的な力を蘇らせる「第四人称」の語りとは。細分化する世界を星座のように再構築する新たな文学の可能性を、「昼の家、夜の家」「逃亡派」のノーベル賞作家が語る。

朝日新聞 2021/11/27

2021.9./ 5p,116p
978-4-00-025360-4

¥1,980〔税込〕



* 9 7 8 4 0 0 0 2 5 3 6 0 4 *



なぎさ(角川文庫 や 28-16)

山本 文緒 著

KADOKAWA

同窓生夫婦の冬乃と佐々井。夫と行動を共にする会社の後輩・川崎。転がり込んできた冬乃の妹・堇。人生に真に必要なものとは-? 迷い抗う大人たちと、苦難を乗り越え生きることの希望を描く。

朝日新聞 2021/11/27

2016.6./ 385p
978-4-04-103989-2

¥748〔税込〕



* 9 7 8 4 0 4 1 0 3 9 8 9 2 *



豊かさ幻想〜戦後日本が目指したもの〜(角川選書 615)

森 正人 著

KADOKAWA

開発、発展、生産性という言葉は、日本において豊かさや幸福とどのように結びつけられてきたのか。アメリカ博覧会、国土開発プロジェクト、公害などの歴史を昭和のメディアから分析し、現代社会への警笛を鳴らす。

朝日新聞 2021/11/27

2019.3./ 302p
978-4-04-703669-7

¥1,870〔税込〕



* 9 7 8 4 0 4 7 0 3 6 6 9 7 *



バタイユ〜エコノミーと贈与〜(講談社選書メチエ le livre)

大澤 真幸／熊野 純彦 編

佐々木 雄大 著

講談社

西洋思想における「エコノミー」の思想史の内にバタイユを位置づけるとともに、彼の思想を「エコノミー」という観点から読解。バタイユの一般エコノミーとはいかなるものか、バタイユにとってエコノミーとは何かを考える。

朝日新聞 2021/11/27

2021.10./ 362p
978-4-06-523948-3

¥2,750〔税込〕



* 9 7 8 4 0 6 5 2 3 9 4 8 3 *



ほんやねこ(講談社の創作絵本)

石川 えりこ 著

講談社

本屋のねこがお散歩にでかけたある日の夕暮れ。閉め忘れた窓から入り込んだ強い風が、絵本の登場人物たちを窓の外へ吹き飛ばしてしまいました。ねこはお散歩をしながら彼らを探すことに…。

朝日新聞 2021/11/27

2021.10./ 40p
978-4-06-524736-5

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 0 6 5 2 4 7 3 6 5 *



八本目の槍

今村 翔吾 著

新潮社

秀吉の配下となった8人の若者たち。武勲を上げた7人は「賤ヶ岳の七本槍」とよばれるように。己の望みに正直な男たちは、迷いながらも別々の道を進む。残りのひとり、石田三成は時代に抗い…。『小説新潮』掲載を単行本化。

朝日新聞 2021/11/27

2019:7./ 394p
978-4-10-352711-4

¥1,980〔税込〕



青いつばさ

シェフ・アールツ 著

徳間書店

16歳のヤードランと11歳のジョシュは、仲よしの兄弟。ジョシュは、知的しょうがいがある兄を幼いころから守ってきました。しかしある日、ヤードランがジョシュに大ケガをさせてしまい、兄弟は引き離されそうになって…。

朝日新聞 2021/11/27

2021:9./ 228p
978-4-19-865357-6

¥1,760〔税込〕



ゆきのようせい

松田 奈那子 著

岩崎書店

秋のおわり、雪虫はいきものたちに冬の訪れを知らせにゆきます。ある一匹の雪虫も、りすたちのところへ行きますが…。北海道・東北地方で主に見られる神秘的な雪虫を、鮮やかな季節の移り変わりと共に優しく描いた絵本。

朝日新聞 2021/11/27

2021:10./ 1冊(ページ
付なし)

978-4-265-08179-0

¥1,540〔税込〕



PTA モヤモヤの正体～役員決めから会費、「親も知らない問題」まで～(筑摩選書 0218)

堀内 京子 著

筑摩書房

保護者間の交流などプラス面がある一方、「？」なことも少なくないPTA。「入退会自由のはずがそうでない」問題から、役員決め、「会費の行方」問題、そして「大きくて深い」問題まで、PTAの“モヤモヤ”に多角的に迫る。

朝日新聞 2021/11/27

2021:9./ 237p
978-4-480-01736-9

¥1,760〔税込〕



逃亡派(EXLIBRIS)

オルガ・トカルチュク 著

白水社

太陽系モデル発見のその年、世界初の解剖図が出版された。天体と人体、2つの地図を人間が同時に描き出した歴史的偶然をモチーフに、時代や国境を越え、宇宙的イメージが絡み合う傑作長篇。

朝日新聞 2021/11/27

2014:3./ 413p,3p
978-4-560-09032-9

¥3,300〔税込〕





縄文時代を知るための 110 問題

勅使河原 彰 著

新泉社

縄文時代研究はいつ始まったか。縄文集落が最初に発掘された遺跡はどこか。縄文土器は何に使われたか。縄文人の主食は何か。縄文時代の疑問点、もう少し深く知りたい論点を、一問一答形式で答える。

朝日新聞 2021/11/27

2021:11./ 330p
978-4-7877-2114-3

¥2,970〔税込〕



文化地理学講義〜<地理>の誕生からポスト人間中心主義へ〜

森 正人 著

新曜社

既存の政治や文化に囚われず大地と人の関係を問う方法はあるのか。空間・風景・場所・自然から地理を捉える文化地理学の始まりから、人間主義地理学を経てポスト人間中心主義に至る思想の転回と展開を詳説する。

朝日新聞 2021/11/27

2021:9./ 5p,276p
978-4-7885-1739-4

¥2,970〔税込〕



運命の謎〜小島信夫と私〜

三浦清宏 著

水声社

異才の小説家・小島信夫の導きによって文学と生き方に目覚めた著者が、小島との出会いと居候生活、みずからの文学修行と見えない世界への関心、そして芥川賞受賞にいたる“出来の悪い弟子”の道のりを豊かに語る。

朝日新聞 2021/11/27

2021:9./ 270p
978-4-8010-0592-1

¥2,750〔税込〕



真宗悪人伝

井上 見淳 著

法蔵館

源平合戦での無数の殺戮の果てに僧になった熊谷直実、親鸞の殺害を企てた修験者・弁円…。浄土真宗の歴史を語る上で欠くべからざる重要人物を「悪人」をキーワードに紹介。『季刊せいてん』連載をもとに加筆修正して単行本化。

朝日新聞 2021/11/27

2021:10./ 6p,264p
978-4-8318-8790-0

¥1,980〔税込〕



オイモはときどきいなくなる

田中哲弥 著

福音館書店

モモヨは小学3年生。帰ってこない犬のオイモを探しに出かけると…。そこにいること、もうそこにはいないこと、ほんとうのこと、ゆめのこと。すべての境目が浮かんでは消えながら紡がれる、ときどきとえいえんの物語。

朝日新聞 2021/11/27

2021:7./ 126p
978-4-8340-8623-2

¥1,540〔税込〕





観光の力〜世界から愛される国、カナダ流のおもてなし〜(NATIONAL GEOGRAPHIC)

ナショナル ジオグラフィック 編

半藤 将代 著

日経ナショナルジオグラフィック社

たくさんの観光客、住民の幸せ、持続可能という矛盾しがちな課題をどうクリアするのか。観光によって地域の自然や文化、暮らしをより良いものにして将来世代に引き継ごうとしている観光大国カナダの事例にヒントをさぐる。

朝日新聞 2021/11/27

2021.11./ 277p
978-4-86313-520-8

¥1,980〔税込〕



うしろめたさの人類学

松村圭一郎 著

ミシマ社

市場、国家、社会…。断絶した世界が「つながり」を取り戻す可能性を構築人類学の手法で追求。他者への共感や「うしろめたさ」の中に世界を再構築するヒントを見出す。ウェブ雑誌『みんなのミシマガジン』連載をもとに書籍化。

朝日新聞 2021/11/27

2017.10./ 189p
978-4-903908-98-4

¥1,870〔税込〕



こうさぎとおちばおくりのうた

わたりむつこ 著

のら書店

秋のいろになった山やまをみて、4 ひきのこうさぎは、森でいちばん大きなぶなの木のぶなじいに会いたくなりました。こうさぎたちはわくわくしながら森にむかいますが、迷子になってしまい…。

朝日新聞 2021/11/27

2021.11./ 39p
978-4-905015-60-4

¥1,760〔税込〕



くらしのアナキズム

松村圭一郎 著

ミシマ社

国家は何のためにあるのか？ ほんとうに必要なのか？ 「国家なき社会」は、希望と可能性を孕んでいる。よりよく生きるきっかけとなる<問い>と<技法>を、人類学の視点からさぐる画期的論考。

朝日新聞 2021/11/27

2021.9./ 237p
978-4-909394-57-6

¥1,980〔税込〕



ビートルズ(新潮新書 922)

北中正和 著

新潮社

グループ解散半世紀でも、時代、世代を越えて支持され続けるビートルズ。なぜ、彼らだけ別格なのか。音楽評論の第一人者が、彼ら自身と楽曲群の地理的、歴史的ルーツを探りながら、その秘密に迫る。

東京・中日新聞 2021/11/07

2021.9./ 237p
978-4-10-610922-5

¥858〔税込〕





東京の生活史

岸政彦 編

筑摩書房

東京で暮らしているいろんな階層、年齢、職業、ジェンダーの人生とは-。東京で生きる 150 人の膨大な語りを一冊に収録した、かつてないスケールで編まれたインタビュー集。

東京・中日新聞 2021/11/07

2021:9./ 1211p
978-4-480-81683-2

¥4,620〔税込〕



グッド・アンセスター～わたしたちは「よき祖先」になれるか～

ローマン・クルツナリック、松本紹圭 著

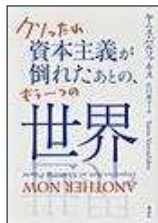
あすなろ書房

未来の子孫にとって「よき祖先」となるために、どう行動すべきか。英国の気鋭の文化思想家が、短期思考から長期思考への転換の必要性を、6 つの具体的方法や心構えと共に説く。

東京・中日新聞 2021/11/07、日本経済新聞 2021/11/20

2021:9./ 317p
978-4-7515-3070-2

¥1,980〔税込〕



クソったれ資本主義が倒れたあとの、もう一つの世界

ヤニス・バルファキス 著

講談社

「公平で正しい民主主義」が実現した 2025 年にいるもう一人の自分と遭遇した。分岐点はリーマンショック。資本主義消滅後のパラレルワールドは、はたして新たなユートピアなのか。異色の経済学者による衝撃のストーリー。

東京・中日新聞 2021/11/14

2021:9./ 356p
978-4-06-521950-8

¥1,980〔税込〕



銀座で逢ったひと

関 容子 著

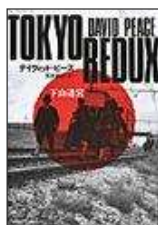
中央公論新社

バスの中、バーの向こう、喫茶店を出たところ-。吉行淳之介、初代中村獅童、沢村貞子、小沢昭一、古今亭志ん朝など、著者が銀座で逢った忘れ得ぬ人々との思い出を綴る。『銀座百点』連載等を加筆修正して単行本化。

東京・中日新聞 2021/11/14

2021:9./ 285p
978-4-12-005466-2

¥2,420〔税込〕



TOKYO REDUX～下山迷宮～([TOKYO YEAR ZERO] [3])

デイヴィッド・ピース 著

文藝春秋

1949 年 7 月、国鉄総裁が姿を消し、深夜、線路上の轢断死体で発見された。GHQ の少将から捜査を命じられたスウィーニーは、東京の暗部へと潜ってゆくが…。戦後最大の怪事件「下山事件」を描く。「東京 3 部作」完結編。

東京・中日新聞 2021/11/14

2021:8./ 437p
978-4-16-391423-7

¥2,750〔税込〕





タリバン復権の真実(ベスト新書 611)

中田 考 著

ベストセラーズ

タリバンは本当に恐怖政治なのか？ イスラーム学の第一人者が、タリバンの誕生から今日に至るまでの思想と行動を彼らの視点に寄り添う形で分かりやすく整理し、タリバンの復活が持つ地政学的、文明論的意味を解き明かす。

東京・中日新聞 2021/11/14

2021:10./ 289p
978-4-584-12611-0

¥990〔税込〕



西洋音楽の正体～調と和声の不思議を探る～(講談社選書メチエ 744)

伊藤 友計 著

講談社

「西洋音楽」とは何か。それはどのように形成されてきたのか。音階や半音の発見、和音原理の探究、長・短調の規則の整理…。西洋音楽の理論・実践の歴史を訪ね、自然と音楽の関係、背景にある思想の展開に焦点を当てる。

東京・中日新聞 2021/11/20

2021:2./ 237p
978-4-06-522738-1

¥1,925〔税込〕



「ピーターと狼」の点と線～プロコフィエフと20世紀～

菊間 史織 著

音楽之友社

地球の上を渡り歩いた作曲家・プロコフィエフが子どものための劇場と出会い、瞬く間に作り上げた、ひとつの幸せな作品があった。「ピーターと狼」のうしろにある壮大な歴史を、物語仕立てで明らかにする。

東京・中日新聞 2021/11/20

2021:6./ 158p,10p
978-4-276-13080-7

¥2,200〔税込〕



二千億の果実

宮内 勝典 著

河出書房新社

見つけて、わたしを見つけて！ いま、二千億の魂が、地球誕生の歴史とともに甦る…。人類誕生から現在、そして未来の「生命」を照射する「宮内文学」飛躍の作品集。『文藝』連載に「コロナの日々」を書き加えて書籍化。

東京・中日新聞 2021/11/21

2021:10./ 289p
978-4-309-02993-1

¥2,475〔税込〕



東京の古本屋

橋本倫史 著

本の雑誌社

開発、オリンピック、感染症-。揺れ動く東京で商いを続ける10軒の古本屋に3日間密着し、その仕事と暮らしを記録するルポルタージュ。WEB『本の雑誌』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2021/11/21

2021:10./ 343p 図版

8枚

978-4-86011-462-6

¥2,200〔税込〕





少女たちの戦争

中央公論新社 編

中央公論新社

若い兵士に言えなかった「サヨナラ」の一言、東京大空襲の翌日に食べた<最後の昼餐>...。瀬戸内寂聴から佐野洋子まで、太平洋戦争開戦時に 20 歳未満だった女性たち 27 名が、非常時の日常を綴る。

東京・中日新聞 2021/11/27

2021:11./ 219p
978-4-12-005476-1

¥1,430〔税込〕



まっくら〜女坑夫からの聞き書き〜(岩波文庫 31-226-1)

森崎 和江 著

岩波書店

筑豊の炭鉱で働いた女性たちの声を聞き取り、その生き様を記録。自らへの誇りを失わず、真っ暗な地の底で過酷な採炭労働に従事した彼女たちの逞しさを生き生きと描く。

東京・中日新聞 2021/11/27、朝日新聞 2021/11/27、毎日新聞 2021/11/27

2021:10./ 329p
978-4-00-312261-7

¥814〔税込〕



万葉と沙羅

中江 有里 著

文藝春秋

中学で登校拒否になり、通信制高校に入学した沙羅は、幼馴染の万葉に再会。本好きの彼に刺激され、新しい本に出会っていく...。実際の本をあげながら描く瑞々しい連作短編集。『オール讀物』他掲載に加筆修正。

東京・中日新聞 2021/11/28

2021:10./ 237p
978-4-16-391454-1

¥1,815〔税込〕



魔の山<上> 改版(岩波文庫)

トーマス・マン／関 泰祐 著

岩波書店

読売新聞 2021/11/07

1988:10./ 598p
978-4-00-324336-7

¥1,386〔税込〕



魔の山<下> 改版(岩波文庫)

トーマス・マン／関 泰祐 著

岩波書店

読売新聞 2021/11/07

1988:10./ 690p
978-4-00-324337-4

¥1,320〔税込〕



魔法のクローゼット〜50代になった娘が選ぶ母のお洋服〜

くぼしま りお 著

KADOKAWA

誰もが憧れる美しい 86 歳。角野栄子スタイルは、娘がコーディネートしていた。気持ちが前向きになる色合わせ、安全で動きやすく機能的なデザイン...。大人になった娘と母のためのファッション・ブック。

読売新聞 2021/11/07

2021:8./ 125p
978-4-04-109586-7

¥1,650〔税込〕





不安に克つ思考～賢人たちの処方箋～(講談社現代新書 2633)

クーリエ・ジャポン 編

講談社

歴史の転換期を生き抜くための必須キーワードとは? 「時代精神の転換」「コロナ禍と人間」「分断と新秩序」「資本主義の諸問題」など6つのテーマ別に、世界の賢人たちの考えを紹介。『クーリエ・ジャポン』掲載を新書化。

読売新聞 2021/11/07

2021.9./ 253p
978-4-06-525804-0

¥990〔税込〕



父の暦(谷口ジローコレクション 1)

谷口 ジロー 著

小学館

父との埋められぬ深い溝、長年続く郷里との断絶。急逝した父の通夜で起きる、奇跡の邂逅の物語。『ビッグコミック』初出時のビッグサイズで迫りくるリマスター版。関川夏央の評論等を掲載した小冊子付き。

読売新聞 2021/11/07

2021.11./ 276p
978-4-09-179365-2

¥2,999〔税込〕



きみはだれかのどうでもいい人(小学館文庫 い49-1)

伊藤 朱里 著

小学館

そこにあるのは、絶望か、希望か。地方の県税事務所に勤める、年齢も立場も異なる女性たち。見ている景色は同じようで、まったく違っていて…。4人の視点で描く、新感覚同僚小説。

読売新聞 2021/11/07

2021.9./ 381p
978-4-09-407060-6

¥792〔税込〕



道化むさぼる揚羽の夢の

金子 薫 著

新潮社

蛹に拘束され、羽化=自由を夢見る男。不条理から逃れるため、命懸けで道化を演じるが。苛酷な世界で本当に必要なものは何か。そこで人はどう生き延びるのか。現実と響きあうディストピア小説。『新潮』掲載を単行本化。

読売新聞 2021/11/07

2021.7./ 198p
978-4-10-354171-4

¥1,980〔税込〕



希望の歴史～人類が善き未来をつくるための18章～<上>

ルトガー・ブレグマン 著

文藝春秋

近現代の社会思想は「性悪説」で動き、それを裏付けるような心理学実験や人類学の調査がなされてきた。だが、これらは本当か。著者は定説の真偽を確かめるべく世界中を飛び回り…。西洋思想を貫く「暗い思想」に挑む。

読売新聞 2021/11/07

2021.7./ 269p
978-4-16-391407-7

¥1,980〔税込〕





希望の歴史～人類が善き未来をつくるための18章～<下>

ルトガー・ブレグマン 著

文藝春秋

「人間の本性は善である」ことを人類史、心理学、思想史、経済史を横断して論じる。そして善人が悪人になってしまう理由とは何か、なぜ人類は生き残れたのか、これから生き延びるためにどうすればよいかを綴った「希望の書」。

読売新聞 2021/11/07

2021:7./ 269p
978-4-16-391408-4

¥1,980〔税込〕



アルタッドに捧ぐ

金子 薫 著

河出書房新社

亡き祖父の家で一人暮らしをしながら小説を書いている本間。ある日、その主人公が砂漠で死んだ。彼の意図しないところで。すると本間の前に、少年が飼育していたトカゲのアルタッドが現れ…。『文藝』掲載を単行本化。

読売新聞 2021/11/07

2014:11./ 130p
978-4-309-02337-3

¥1,430〔税込〕



白い陥穽(光文社文庫 鮎川哲也のチェックメイト あ2-67)

鮎川哲也 著

光文社

信用金庫の支店長の花井は、浮気をネタに高額な金を強請られていた。もはや恐喝者を抹殺する以外に道はない。綿密な計画のもとに殺人を実行した花井だったが…。「暗い罅」など全8編を収録した、倒叙推理アンソロジー第2弾。

読売新聞 2021/11/07

2021:10./ 341p
978-4-334-79260-2

¥814〔税込〕



ムスコ物語

ヤマザキ マリ 著

幻冬舎

いつどんな時もムスコの味方! 生きる自由を謳歌せよ! 母になり、海外を渡り歩き息子と暮らした日々を描く、ヤマザキマリ流子育て放浪記。ムスコが綴った「ハハ物語」も収録。『小説幻冬』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

読売新聞 2021/11/07

2021:8./ 242p
978-4-344-03819-6

¥1,650〔税込〕



天皇「生前退位」の真実(幻冬舎新書 た-8-2)

高森 明勅 著

幻冬舎

譲位に憲法改正は不要だが皇室典範改正は不可欠だ。改正せず特措法にすれば退位と新天皇の即位自体が「違憲」となり、譲位直後にさまざまな問題が浮上する。天皇・神道学の第一人者が「皇室典範問題」のすべてを徹底解説する。

読売新聞 2021/11/07

2016:11./ 262p
978-4-344-98441-7

¥924〔税込〕





「女性天皇」の成立(幻冬舎新書 た-8-3)

高森明勅 著

幻冬舎

皇室典範改正は停滞、女性・女系天皇の議論すらせず、安定的な皇位継承の実現を放棄している政府。「女性天皇」を阻むものは何か。「皇位の安定継承」をめぐる主な論点について、平易明快に解説する。

読売新聞 2021/11/07

2021.9./ 228p
978-4-344-98633-6

¥946〔税込〕



「書体」が生まれる～ベントンと三省堂がひらいた文字デザイン～

雪朱里 著

三省堂

かつて、限られた「種字彫刻師」の頭の中にのみあるものだった活字のデザイン。現代の書体デザインにつながる手法を伝えたのは三省堂とベントン彫刻機だった。“「書体」が生まれる”そのときをめぐる、現場の奮闘をたどる。

読売新聞 2021/11/07

2021.9./ 313p,6p 図
版 16p

978-4-385-34915-2

¥3,630〔税込〕



教養としての茶道～世界のビジネスエリートが知っている～

竹田 理絵 著

自由国民社

世界のビジネスパーソンが憧れる「おもてなし」。それを体現するのが「茶道」。最低限知っておきたい茶道の知識や歴史、豆知識など、ビジネスパーソンとして身につけておきたい茶道の教養を盛り込む。

読売新聞 2021/11/07

2021.8./ 240p
978-4-426-12729-9

¥1,650〔税込〕



THE LONELY CENTURY～なぜ私たちは「孤独」なのか～

ノリーナ・ハーツ 著

ダイヤモンド社

テクノロジーによって誰かとつながることがこれまでになく簡単になったのに、無数の人たちが一人ぼっちだと感じている。現在の分断と孤立と孤独を食い止めるアイデアや考え方、事例を紹介する。

読売新聞 2021/11/07

2021.7./ 8p,310p,70p
978-4-478-10863-5

¥2,420〔税込〕



北方領土交渉史(ちくま新書 1601)

鈴木 美勝 著

筑摩書房

北方領土交渉は、安倍対露外交で後退してしまった。その舞台裏で何が起こっていたのか。国家の根幹をなす北方領土問題を、当時のインサイダー情報も交えて子細に辿りながら、外交交渉の要諦を抽出する。

読売新聞 2021/11/07

2021.9./ 318p
978-4-480-07418-8

¥1,034〔税込〕





日本の気配 増補版(ちくま文庫 た 96-1)

武田 砂鉄 著

筑摩書房

「気配=周囲の状況から何となく感じられる様子」とはどこで芽生えているのか。それを作り出しているのは誰か。日本を覆う「気配」の危うさを、さまざまな状況や事件からあぶり出す。2021年6月時点の追記を加えた増補版。

読売新聞 2021/11/07

2021.9./ 344p
978-4-480-43759-4

¥924〔税込〕



『坊っちゃん』の時代〜凛冽たり近代なお生彩あり明治人〜(谷口ジローコレクション 6)

谷口ジロー／関川夏央 著

双葉社

夏目金之助(漱石)、数え年39歳。見通せぬ未来を見ようと身悶えていた…。近代日本の青年期を散り散りに疾駆する群像をいきいきと描く。関川夏央・谷口ジローコンビの傑作。雑誌初出時のビッグサイズ。別冊特典小冊子付き。

読売新聞 2021/11/07

2021.10./ 253p
978-4-575-31666-7

¥2,999〔税込〕



ブンダバー<1>(ポプラポケット文庫 041-1)

くぼしま りお、佐竹 美保 著

ポプラ社

古道具屋のおしじさんが拾った洋服ダンスには動物の顔らしきものが彫られていました。鼻と口を彫ってやると、ダンスの中から言葉をしゃべる真っ黒なネコ、ブンダバーが飛び出してきて…。

読売新聞 2021/11/07

2013.8./ 144p
978-4-591-13546-4

¥682〔税込〕



孤独のグルメ<1> 文庫版(扶桑社文庫 く 30-2)

久住 昌之 著

扶桑社

輸入雑貨商の井之頭五郎が下町で、仕事先で、味わう食の数々。山谷のぶた肉いためライス、浅草の豆かんなど、何の変哲もない、けれども特別なひとり飯の至福を描く。「東京都内某病院のカレイの煮付け」を加えて再文庫化。

読売新聞 2021/11/07

2020.6./ 206p
978-4-594-08478-3

¥770〔税込〕



北里柴三郎〜熱と誠があれば〜(ミネルヴァ日本評伝選)

福田 真人 著

ミネルヴァ書房

ペスト菌を発見し、伝染病研究所や慶応義塾大学医学部を創設、日本医師会の設立など学問的、社会的な面で日本の近代医学の発展に多大な功績を残した北里柴三郎。その生涯を俯瞰し、終始貫いたその熱き情熱を明らかにする。

読売新聞 2021/11/07

2008.10./ 16,355,12p
978-4-623-04981-3

¥3,080〔税込〕





時代をひらく書体をつくる。～書体設計士・橋本和夫に聞く活字・写植・デジタルフォントデザインの舞台裏～

雪 朱里 著

グラフィック社

活字・写植・デジタルフォントと3世代にわたり文字をデザインし続けた書体設計士・橋本和夫へインタビュー。現在のルーツとなる書体デザインの舞台裏を浮かび上げ、日本の書体の知られざる流れを紐解く。

読売新聞 2021/11/07

2020:11./ 5p,295p
978-4-7661-3459-9

¥2,970〔税込〕



躍動するインド世界の布

上羽陽子/金谷美和 編

昭和堂

インド世界の布は、身につけるだけでなく、場をくぎり、人をつなぎ、神と人の媒介となり、政治をうごかし、グローバル経済をうみだす。インド社会をつくりだしている人びとの営みを多彩な布から迫る。

読売新聞 2021/11/07

2021:10./ 130p
978-4-8122-2101-3

¥2,090〔税込〕



消えた「四島返還」～安倍政権日口交渉 2800 日を追う～

北海道新聞社 編

北海道新聞社

27 回の首脳会談、重ねた妥協…。安倍首相とプーチン大統領による北方領土交渉の現場で何が起きていたのか。2 島返還への転換の舞台裏を、『北海道新聞』の膨大な取材メモから明らかにする。

読売新聞 2021/11/07

2021:9./ 311p
978-4-86721-038-3

¥1,980〔税込〕



死者の力～津波被災地「霊的体験」の死生学～

高橋 原/堀江 宗正 著

岩波書店

私たちは、死者とどう生きてきたのか。東日本大震災の津波被災地で語られる「霊」体験。物語の力、宗教伝統や儀礼の役割、死者による生者のケア…。被災地住民と宗教者への聴き取りに基づき、「死者の力」に迫る。

読売新聞 2021/11/14

2021:9./
20p,277p,51p
978-4-00-061489-4

¥2,640〔税込〕



夜叉ヶ池・天守物語(岩波文庫)

泉 鏡花 著

岩波書店

読売新聞 2021/11/14

1984:4./ 141p
978-4-00-310273-2

¥462〔税込〕



ナジャ(岩波文庫)

アンドレ・ブルトン、巖谷 国土 著

岩波書店

読売新聞 2021/11/14

2003:7./ 345p
978-4-00-325902-3

¥1,012〔税込〕





聖職の碑 新装版(講談社文庫 に 4-13)

新田 次郎 著

講談社

大正2年8月26日、中箕輪(なかみのわ)尋常高等小学校生徒ら37名が修学旅行で伊那駒ヶ岳に向かった。しかし天候が急変、嵐に巻き込まれ11名の死者を出した。信濃教育界の白樺派理想主義教育と実践主義教育との軋轢、そして山の稜線上に立つ碑は、なぜ「慰霊碑」ではなく「遭難記念碑」なのか。悲劇の全体像を真摯に描き出す。

読売新聞 2021/11/14

2011.6./ 456p
978-4-06-276991-4

¥902〔税込〕



海を見ていたジョニー 新装版(講談社文庫 い 1-85)

五木 寛之 著

講談社

海辺の基地の町で姉と2人でバーを経営している淳一。彼の楽しみは黒人兵のジョニーたちとジャズを演奏することだった。だがベトナムへ行き、10カ月ぶりに現れたジョニーは人が変わっていて…。表題作ほか全5編を収録。

読売新聞 2021/11/14

2021.7./ 298p
978-4-06-524191-2

¥737〔税込〕



私の親鸞～孤独に寄りそうひと～(新潮選書)

五木 寛之 著

新潮社

なぜ私は「ああ、この人は自分のことを分かってくれる」と思えたのか。「聖人」ではない「生身」の姿を追いつけて半世紀、89歳の五木寛之がわが心の内の親鸞を語る。新潮講座で語りおろした話に、その他の文章を追加。

読売新聞 2021/11/14

2021.10./ 196p
978-4-10-603874-7

¥1,485〔税込〕



世界の知性が語る「特別な日本」(新潮新書 924)

会田弘継 著

新潮社

近現代日本は世界にとって如何なる存在だったのか。リー・クアンユー、李登輝、ブトロス・ガリら世界の政治家や知識人にインタビューし、それぞれの国が抱えた近代の葛藤と日本への特別な思いに迫る。『波』連載を加筆修正。

読売新聞 2021/11/14

2021.9./ 187p
978-4-10-610924-9

¥792〔税込〕



センセイの鞆(文春文庫)

川上 弘美 著

文芸春秋

高校の先生と飲み屋で十数年ぶりに再会したツキコさん。七十代のセンセイとの淡き恋を描く、谷崎賞受賞のベストセラーの文庫化

読売新聞 2021/11/14

2004.9./ 278p
978-4-16-763103-1

¥682〔税込〕





夢を見るとき脳は～睡眠と夢の謎に迫る科学～

アントニオ・ザドラ、ロバート・スティックゴールド 著

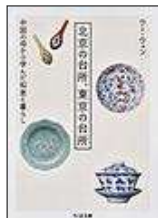
紀伊國屋書店出版部

夢とは何か、どこから来て、どんな意味や目的があるのか。睡眠と夢を長年研究してきた著者らが、自身で構築した NEXTUP モデルをもとに、人間が夢を必要とする理由を明かし、新たな角度から夢の正体に挑む。

読売新聞 2021/11/14

2021/9./ 333p
978-4-314-01186-0

¥2,420〔税込〕



北京の台所、東京の台所～中国の母から学んだ知恵と暮らし～(ちくま文庫 う 44-1)

ウー・ウェン 著

筑摩書房

医食同源に基づいた北京の人々の暮らしの知恵、日中の食文化の違い、数々の料理や台所道具…。中国と日本の架け橋になるよう奮闘してきた料理研究家のエッセイ集。北京家庭料理レシピつき。

読売新聞 2021/11/14

2021/10./ 234p 図版
16p

978-4-480-43767-9

¥968〔税込〕



ぐるり

高橋 久美子 著

筑摩書房

夫婦、友達、親子。この地球に生きる私達の日常は奇跡のような出会いとすれ違いの積み重ねでできている。作家、詩人、作詞家として活躍する著者が綴る全 19 篇の初短編集。『web ちくま』連載に書下ろしを加えて書籍化。

読売新聞 2021/11/14

2021/4./ 213p
978-4-480-80502-7

¥1,540〔税込〕



平田篤胤～交響する死者・生者・神々～(平凡社新書 819)

吉田 麻子 著

平凡社

現代にも通ずる日本独自の豊かな死生観を探究した、江戸後期の思想家・平田篤胤の生涯と思想。かつて国粹主義の元祖とされ、国学において宣長学の俗化と捉えられてきた篤胤の知られざる全貌を、新資料から明らかにする。

読売新聞 2021/11/14

2016/7./ 255p
978-4-582-85819-8

¥902〔税込〕



世界を救う mRNA ワクチンの開発者カタリン・カリコ(ポプラ新書 215)

増田 ユリヤ 著

ポプラ社

世紀の発見は逆境から生まれた! 新型コロナワクチン開発を可能にした「ワクチンの女神」カタリン・カリコ。ノーベル賞に最も近い研究者の挫折続きの人生と、RNA 研究の可能性に迫る。山中伸弥のインタビューも掲載。

読売新聞 2021/11/14

2021/10./ 183p
978-4-591-17144-8

¥1,045〔税込〕





青森 1950-1962～工藤正市写真集～

工藤正市 著

みすず書房

駄賃つけの番屋、ねぶた祭、女人夫…。昭和 30 年代の青森で、人知れず奇跡の瞬間を撮り溜めていた写真家がいた。工藤正市が残したプリントとフィルムから一挙 366 点を収録。青森市街の撮影ポイントを示す地図も掲載。

読売新聞 2021/11/14

2021.9./ 427p
978-4-622-09020-5

¥3,960〔税込〕



* 9 7 8 4 6 2 2 0 9 0 2 0 5 *



山岳気象遭難の真実～過去と未来を?いで遭難事故をなくす～(ヤマケイ新書 YS060)

大矢 康裕、吉野 純 著

山と溪谷社

爆弾低気圧、豪雨、落雷…。山岳防災気象予報士が、最新の知見に基づいて山岳気象遭難を引き起こす背景を探り、事故を未然に防ぐ手立てを考察。過去の遭難事故の教訓や、将来の気候変動とそれに伴うリスクなども解説する。

読売新聞 2021/11/14

2021.9./ 254p
978-4-635-51075-2

¥1,100〔税込〕



* 9 7 8 4 6 3 5 5 1 0 7 5 2 *



アフガニスタンを知るための 70 章(エリア・スタディーズ 185)

前田 耕作／山内 和也 著

明石書店

東西冷戦や宗教原理主義の台頭、いわゆる「テロとの戦い」の舞台となるなど、数十年にわたり苦しい状況に置かれているアフガニスタン。その歴史と文化、人びとの暮らしを、平和と復興への期待を込めて幅広く紹介する。

読売新聞 2021/11/14

2021.9./ 408p
978-4-7503-5243-5

¥2,200〔税込〕



* 9 7 8 4 7 5 0 3 5 2 4 3 5 *



客観性

ロレイン・ダストン／ピーター・ギャリソン 著

名古屋大学出版会

客観性とは何か。科学はいかにして「客観的なもの」と向き合うようになったのか。近世の博物学や解剖学から、現代のナノテクノロジーまで、科学者の実践や「認識的徳」の展開をたどり、客観性の歴史を壮大なスケールで描く。

読売新聞 2021/11/14

2021.8./ 6p,343p,65p
図版 32p
978-4-8158-1033-7

¥6,930〔税込〕



* 9 7 8 4 8 1 5 8 1 0 3 3 7 *



日米の絆～元駐米大使加藤良三回顧録～

三好 範英 編

加藤 良三 著

吉田書店

沖縄返還交渉、湾岸戦争、9.11、イラク戦争…危機でこそ生きる日米安保の秘密とは。「同盟」を生涯賭けて追求した元駐米大使・加藤良三が、外交官生活を振り返る。『読売新聞』連載「時代の証言者」を大幅加筆。

読売新聞 2021/11/14

2021.7./ 13p,408p
978-4-905497-95-0

¥3,520〔税込〕



* 9 7 8 4 9 0 5 4 9 7 9 5 0 *



極夜行(文春文庫 か 67-3)

角幡 唯介 著
文藝春秋

暗闇のなか、氷床を歩き続け 4 カ月ぶりに太陽を見た時、人は何を思うのか。太陽が昇らない冬の北極を、一頭の犬とともに命懸けで体感した探検家がつづる冒険ノンフィクション。

読売新聞 2021/11/14、朝日新聞 2021/11/27

2021.10./ 398p
978-4-16-791772-2

¥880〔税込〕



あちらにいる鬼(朝日文庫 い 85-3)

井上荒野 著
朝日新聞出版

1966 年、講演旅行をきっかけに男女の仲となる 2 人の作家-白木篤郎と長内みはる。繰り返される情事に気づきながらも心を乱さない篤郎の美しい妻、笙子。愛と<書くこと>に貫かれた人間たちの生を描く。

読売新聞 2021/11/21

2021.11./ 351p
978-4-02-265017-7

¥825〔税込〕



風街とデラシネ〜作詞家・松本隆の 50 年〜

田家 秀樹 著
KADOKAWA

フォーク/ロックと歌謡曲の間に橋を架け、多彩で抒情的な作詞スタイルを確立した松本隆。細野晴臣、大瀧詠一、松田聖子らとのエピソードなど、本人と関係者の証言をもとに、日本語ポップス史をたどる。『熱風』連載に加筆。

読売新聞 2021/11/21

2021.10./ 525p
978-4-04-111884-9

¥2,860〔税込〕



北緯 43 度のコールドケース

伏尾 美紀 著
講談社

博士号取得後、大学を辞めて北海道警察に入った沢村依理子。ある日、未解決の誘拐事件の被害者の遺体が発見される。犯人と思われた男はすでに死亡。その誘拐事件の捜査資料が漏洩し、沢村は漏洩犯としての疑いをかけられて...

読売新聞 2021/11/21

2021.10./ 397p
978-4-06-524996-3

¥1,925〔税込〕



夜中の電話〜父・井上ひさし最後の言葉〜(集英社文庫 い 87-1)

井上 麻矢 著
集英社

自分の潔癖さを愛しなさい。何事も基本形を作ることが大事。忙しい時こそ、映画を観て本を読み。2010 年に没した井上ひさしが、「こまつ座」を継いだ三女・麻矢に語った 77 の珠玉の言葉をまとめる。新章を追加し文庫化。

読売新聞 2021/11/21

2021.9./ 207p
978-4-08-744302-8

¥594〔税込〕





ユリシーズ<1>(集英社文庫)

ジェイムズ・ジョイス 著
集英社
読売新聞 2021/11/21

2003:9./ 687p
978-4-08-761004-8
¥1,430〔税込〕
* 9 7 8 4 0 8 7 6 1 0 0 4 8 *



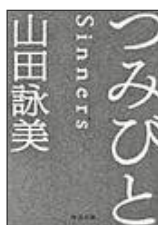
歴史修正主義～ヒトラー賛美、ホロコースト否定論から法規制まで～(中公新書 2664)

武井 彩佳 著
中央公論新社

ナチスによるユダヤ人虐殺といった史実を、意図的に書き替える歴史修正主義。ホロコースト否定論が世界各地で噴出し、裁判や法規制も進む。100年以上に及ぶ欧米の歴史修正主義の実態を追い、歴史とは何かを問う。

2021:10./ 5p.250p
978-4-12-102664-4
¥924〔税込〕
* 9 7 8 4 1 2 1 0 2 6 6 4 4 *

読売新聞 2021/11/21



つみびと(中公文庫 や 65-3)

山田 詠美 著
中央公論新社

灼熱の夏、彼女はなぜ幼な子2人を置き去りにしたのか？ 追い詰められた母親、死に行く子どもたち…。虐げられる者の心理に分け入り、痛ましいネグレクト事件の深層を探る。春日武彦との対談も収録。

2021:9./ 424p
978-4-12-207117-9
¥792〔税込〕
* 9 7 8 4 1 2 2 0 7 1 1 7 9 *

読売新聞 2021/11/21



だいありい～和田誠の日記 1953?1956～

和田 誠 著
文藝春秋

日々映画と音楽を鑑賞し、似顔絵を描き、友達と語らう。グラフィックデザイナー、イラストレーターとして活躍し、2019年に逝去した和田誠が1953?56年に書いた日記を手書き文字のまま書籍化。三谷幸喜の解説付き。

2021:10./ 391p
978-4-16-391446-6
¥3,300〔税込〕
* 9 7 8 4 1 6 3 9 1 4 4 6 6 *

読売新聞 2021/11/21



内村鑑三(文春学藝ライブラリー)

新保 祐司 著
文藝春秋

「近代日本の定点」である、新たな内村鑑三観を打ち出した画期的批評。小林秀雄や保田與重郎を畏れさせ、多くの知識人に多大な影響を与えた破格の人物の核心に迫り、近代日本を貫く精神を明らかにする。

2017:10./ 351p
978-4-16-813064-9
¥1,430〔税込〕
* 9 7 8 4 1 6 8 1 3 0 6 4 9 *

読売新聞 2021/11/21



あなたに安全な人

木村 紅美 著

河出書房新社

教え子をいじめ自殺に追いやってしまったかもしれない元教師の女と、デモの警備中に参加者を事故で死なせてしまったかもしれない男。ふたりは「感染者第一号」となることを誰もが恐れる地で出会い…。『文藝』掲載を書籍化。

読売新聞 2021/11/21

2021:10./ 149p
978-4-309-02997-9

¥1,837〔税込〕



強迫症を治す〜不安とこだわりからの解放〜(幻冬舎新書 か-29-1)

亀井士郎／松永寿人 著

幻冬舎

精神科医の亀井は強迫症を発症。強い不安とこだわりに苛まれる日々を送るが、強迫症治療の第一人者・松永と出会い…。強迫症の病理と治療を、当事者らがリアルに、かつ分かりやすく解説する。患者と家族への指南も収録。

読売新聞 2021/11/21

2021:9./ 334p
978-4-344-98632-9

¥1,056〔税込〕



トリカゴ

辻堂 ゆめ 著

東京創元社

殺人未遂事件の容疑者は無戸籍だった。蒲田署の刑事・森垣里穂子は、捜査によって彼らが隠れ住むコミュニティを壊してしまうのではと苦悩する。だが、かつて日本中を震撼させた“鳥籠事件”との共通点に気づき…。

読売新聞 2021/11/21

2021:9./ 390p
978-4-488-02849-7

¥1,980〔税込〕



怪異筆録者(創元推理文庫 M お 6-13)

太田忠司 著

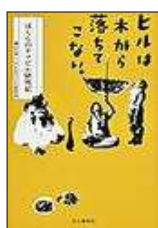
東京創元社

「この町について作品を書いて欲しい」と請われて、寂れた田舎町・古賀音を訪れたホラー作家・津久田舞々。彼は滞在先の洋館で「あるもの」の封印を解いてしまい…。愛すべきジェントル・ゴースト・ストーリー。

読売新聞 2021/11/21

2021:9./ 355p
978-4-488-49013-3

¥968〔税込〕



ヒルは木から落ちてこない。〜ぼくらのヤマビル研究記〜

樋口 大良、子どもヤマビル研究会 著

山と溪谷社

知らない間に血を吸う嫌われ者のヤマビル。そんなヤマビルの生態研究に挑む小中学生がいた。山でヤマビルの数を数え、ときに自らの血を吸わせて育て、解剖する。彼らが解き明かしてきたヤマビルの生態の数々を紹介する。

読売新聞 2021/11/21

2021:8./ 303p
978-4-635-06308-1

¥1,430〔税込〕





図書館を語る～未来につなぐメッセージ～

山崎 博樹 著

青弓社

これからの図書館をどうやって運営すればいいのか。新しい図書館サービスの提言、学校図書館に求められる機能、図書館関連メーカーの考えなどを、図書館長ら、最前線で活動する人々が縦横に語る。

読売新聞 2021/11/21

2021.8./ 275p
978-4-7872-0077-8

¥2,860〔税込〕



松本隆のことばの力(インターナショナル新書 085)

藤田 久美子 著

集英社インターナショナル

はっぴいえんどで実践した「日本語ロック」や松田聖子など多くのアーティストたちに提供した歌詞の背景から浮かび上がってくるのは、日本語という言葉のおもしろさと可能性。作詞家・松本隆に 50 年のキャリアのすべてを聞く。

読売新聞 2021/11/21

2021.10./ 197p
978-4-7976-8085-0

¥902〔税込〕



APATANI STYLE～The Apatani Tribe of Arunachal Pradesh, India～

光村推古書院

インド北東部の標高およそ 1600?1700 メートルの盆地に暮らすアパタニ族の写真集。鼻栓やイレズミ、額の髻など独特な風習をもつアパタニ族の人々や村の生活、文化を活写する。

読売新聞 2021/11/21

2021.10./ 215p
978-4-8381-9860-3

¥4,400〔税込〕



「海道東征」への道

新保 祐司 著

藤原書店

封印されていた交声曲「海道東征」は、なぜ復活したのか。東日本大震災に直面し「戦後日本」が根底から揺るがされた戦後 60 年から 70 年の 10 年間における、日本社会の精神的考察を集成する。『産経新聞』連載を書籍化。

読売新聞 2021/11/21

2016.8./ 324p
978-4-86578-086-4

¥3,080〔税込〕



ベートーヴェン 一曲一生

新保 祐司 著

藤原書店

なぜベートーヴェンは近代を、そして現代を超えるのか？ 新型コロナ禍による異常な 100 日間、ベートーヴェンの作品を 1 日 1 曲、ほぼ全て聴き尽くした著者が、「天才」の本質に迫る批評集。

読売新聞 2021/11/21

2020.11./ 262p
978-4-86578-291-2

¥2,750〔税込〕





明治頌歌～言葉による交響曲～

新保 祐司 著

展転社

明治という時代と「明治の精神」は、日本の歴史上特筆すべきものだった。明治時代を回想し、国木田独步、中原中也、夢野久作など明治の文学作品から明治の精神を描き出す。

読売新聞 2021/11/21

2017:7./ 191p
978-4-88656-440-5

¥1,430〔税込〕



異形の明治

新保 祐司 著

藤原書店

「理想」に?まれ、「絶対」に貫かれた、「化物」たちの時代-。山田風太郎、服部之総、池辺三山、清沢洌、尾佐竹猛らの「歴史の活眼」を導きとして、明治初年の精神に迫る。学芸総合誌・季刊『環』連載を加筆修正。

読売新聞 2021/11/21

2014:8./ 229p
978-4-89434-983-4

¥2,640〔税込〕



物理学者、SF 映画にハマる～「時間」と「宇宙」を巡る考察～(光文社新書 1164)

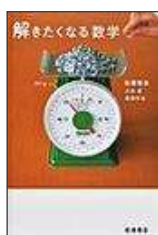
高水裕一 著

光文社

フィクションが未来の科学を導く!? ホーキング博士も探したタイムトラベラー、実物と瓜二つだった「インターステラー」のブラックホール…。物理学者とともに一度は夢見た SF 世界の可能性を探る。

読売新聞 2021/11/21、東京・中日新聞 2021/11/28

2021:10./ 213p
978-4-334-04571-5
¥858〔税込〕



解きたくなる数学

佐藤 雅彦／大島 遼／廣瀬 隼也 著

岩波書店

「ピタゴラスイッチ」制作メンバーが作った、論理的思考が身につく数学問題集。「鳩の巣原理」「三角不等式」「数学的帰納法」などを魅力的な写真とグラフィックで表現した、全 23 問を収録する。

読売新聞 2021/11/28

2021:9./ 133p
978-4-00-006339-5
¥1,980〔税込〕



贈与論～他二篇～(岩波文庫 34-228-1)

マルセル・モース 著

岩波書店

贈与や交換は、社会の中でどのような意味を担っているのか。古今東西の贈与体系を比較し、その全体的社会的性格に迫る。「トラキア人における古代的な契約形態」「ギフト、ギフト」の 2 編も収録。

読売新聞 2021/11/28

2014:7./ 489p
978-4-00-342281-6
¥1,320〔税込〕





歴史のダイヤグラム～鉄道に見る日本近現代史～(朝日新書 832)

原武史 著

朝日新聞出版

特別車両で密談する秩父宮、ダイヤ改正と「点と線」のトリック、丸山眞男がメモした車中の会話…。博覧強記の鉄道知識で、縦横無尽に歴史の路線図を描きだす。朝日新聞土曜別刷り『be』連載を新書化。

2021:9./ 267p
978-4-02-295139-7

¥935〔税込〕



読売新聞 2021/11/28



Wの悲劇 改版(角川文庫 な 8-1)

夏樹 静子 著

角川書店

製薬会社会長の別荘に一族が集まった正月、悲劇の幕は切って落とされた。会長が姪孫に刺殺されたのだ。彼らは外部犯に見せかけようとするが、その偽装工作を警察に暴露しようとする人物が現われ、事件は意外な方向へ…。

2012:4./ 344p
978-4-04-100321-3

¥649〔税込〕



読売新聞 2021/11/28



鬼むかし～昔話の世界～(角川ソフィア文庫 J106-9)

五来 重 著

KADOKAWA

こぶとり、桃太郎、天邪鬼…。鬼の昔話の原型は、死霊と祖霊が形象化されて鬼になったものである。仏教民俗学の泰斗が、綿密な現地調査と知見を活かし、昔話の根底に潜む宗教的背景を読み解く。

2021:10./ 301p
978-4-04-400675-4

¥1,232〔税込〕



読売新聞 2021/11/28



転がる検事に苦むさず

直島 翔 著

小学館

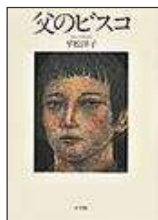
若い男が鉄道の高架から転落し、猛スピードで走る車に衝突した。自殺か、他殺か。戸惑う所轄署の刑事課長は、飲み仲間の検事・久我周平に手助けを求める。死んだ男の周辺には灰色の影がちらつき…。本格検察ミステリー。

2021:9./ 316p
978-4-09-386617-0

¥1,760〔税込〕



読売新聞 2021/11/28



父のビスコ

平松 洋子 著

小学館

父の死に接してから、かつて過ごした倉敷の時間や場所がいっそう親しく身近にまわりつくようになった-。平松洋子の自伝的エッセイ集。『本の窓』連載を単行本化。「旅館くらしき」創業者・畠山繁子による随筆も収録。

2021:10./ 331p
978-4-09-388841-7

¥1,870〔税込〕



読売新聞 2021/11/28



腰痛放浪記椅子がこわい(新潮文庫)

夏樹静子 著

新潮社

読売新聞 2021/11/28

2003:7./ 246p
978-4-10-144310-2

¥572〔税込〕



贈与と聖物～マルセル・モース「贈与論」とマダガスカルの社会的実践～

森山 工 著

東京大学出版会

「贈与」とは何か、「譲りえぬもの」とは何か。フランスの社会学者・民族学者・人類学者、マルセル・モースの「贈与論」を読解し、マダガスカルにおける「墓」の形式的な変遷等の考察を通じて、モースによる贈与の本質に迫る。

読売新聞 2021/11/28

2021:8./ 6p,309p,47p
978-4-13-050303-7

¥6,600〔税込〕



異常論文(ハヤカワ文庫 JA 1500)

樋口 恭介 編

早川書房

廃墟の中を蠢く無数のオブジェクトたち。彼らによって形成される異形の生態系-。先鋭的なアイデアを架空論文の形で提示して話題を呼んだ『SF マガジン』の特集に、新たに十数篇の書き下ろしを追加して文庫化。

読売新聞 2021/11/28

2021:10./ 687p
978-4-15-031500-9

¥1,364〔税込〕



テヘランでロリータを読む(河出文庫 ナ 3-1)

アーザル・ナフィーシー 著

河出書房新社

テヘランの大学で英文学を講じていた著者は、抑圧的な大学当局に嫌気がさして辞職し、優秀な女子学生7人とともに、ひそかに西洋文学を読む研究会をはじめた…。激動のイランで暮らした経験を綴った文学的回想録。

読売新聞 2021/11/28

2021:11./ 585p
978-4-309-46743-6

¥1,672〔税込〕



「問い」から始まる哲学入門(光文社新書 1163)

景山洋平 著

光文社

アリストテレスからマルクス・ガブリエルまで、2600年の語りあいの中で哲学者は何を探究してきたのか。語りあいの歩みを丁寧に辿り、「問い」の歴史とその意味を示す、不確かな世界を生き抜くための哲学入門。

読売新聞 2021/11/28

2021:10./ 259p
978-4-334-04570-8

¥924〔税込〕





ことばの「省略」とは何か

尹盛熙 著

大修館書店

「あざっす」という言い方や、「時計持ってる?」「3時だよ」という会話にも関係する「省略」。日常会話・新聞の見出し、映画字幕など様々な場面に現れる省略の実例を紹介しながら、省略という現象のもつ深い意味を考える。

読売新聞 2021/11/28

2021:8./ 8p,224p
978-4-469-21386-7

¥2,750〔税込〕



眠りの航路(エクス・リブリス)

呉明益 著

白水社

台北で暮らすフリーライターの「ぼく」。睡眠の異常に悩む「ぼく」の意識は、やがて太平洋戦争末期に神奈川県の高座海軍工廠に少年工として海を渡った父・三郎の人生を追憶し…。台湾を代表する作家・呉明益の長篇デビュー作。

読売新聞 2021/11/28

2021:9./ 338p
978-4-560-09069-5

¥2,640〔税込〕



残月記

小田雅久仁 著

双葉社

近未来の日本、人々を震撼させている感染症「月昂」に冒された若者。カリスマ暴君の歪んだ願望に運命を翻弄されながら、愛する女のために抗い続け…。表題作はじめ全3編を収録。『小説推理』掲載を書籍化。

読売新聞 2021/11/28

2021:11./ 381p
978-4-575-24464-9

¥1,815〔税込〕



誹謗中傷犯に勝訴しました〜障害児の息子を守るため〜(BAMBOO ESSAY SELECTION)

moro 著

竹書房

アンチからのメッセージに頭を悩ます中、突如、WEB上に現れた“息子と同じ小学校の保護者”。自閉スペクトラム症の息子に浴びせられる心無い言葉。私たち親子を日常から排除しようとする動き——。教育委員会に息子へのクレームを入れるなど、エスカレートしていく保護者たち——!! 一方、巨大掲示板では、息子の小学校・娘の小学校・私の本名が晒され、アンチブログでは、出版社やブログ運営会社に漫画内容や記事の見直しを求める署名活動が! 描き下ろしのこぼれ話も収録!

読売新聞 2021/11/28

2021:11./ 187p
978-4-8019-2862-6

¥1,320〔税込〕





イノベーション概念の現代史

ブノワ・ゴダン 著

名古屋大学出版会

現代社会のキーワードとして君臨する「イノベーション」は、いかに考え出され、政策や経営に組み込まれていったのか。国際機関や省庁・企業の実務家たちに焦点を合わせ、科学・技術の「有用性」を問い直す。

読売新聞 2021/11/28

2021:10./
4p,185p,25p
978-4-8158-1046-7

¥3,960〔税込〕



希望の一滴～中村哲、アフガン最期の言葉～

中村哲 著

西日本新聞社

治療よりも水と食料が必要だ-。1600本の井戸を掘り、65万人の命を支える用水路を建設した医師・中村哲の活動を、彼の言葉と数々の写真で振り返る。『西日本新聞』『ペンシャール会報』ほか掲載を書籍化。

読売新聞 2021/11/28

2020:12./ 191p
978-4-8167-0988-3

¥1,650〔税込〕



池波正太郎が通った<店> 増補改訂版

馬場啓一 著

いそっぷ社

「もっとも好むカツレツ」と評した洋食屋から、京都の老舗料亭、長野の蕎麦屋まで、池波正太郎が愛した店を全110軒紹介。店を実際に訪ねて料理を食べ、その味と佇まいを伝える。マップ付き。新規取材を加えた増補改訂版。

読売新聞 2021/11/28

2021:11./ 238p,16p
978-4-900963-95-5

¥1,760〔税込〕



法医学者の使命～「人の死を生かす」ために～(岩波新書 新赤版 1890)

吉田 謙一 著

岩波書店

なぜ、死因を誤るのか。突然死はどのように発生し、何をもたらすのか。どうすれば、冤罪を防止できるのか。法医学者が実際に起きた事件を題材に、法医鑑定、刑事司法の問題点を示し、自身の対応・トライアルを紹介する。

日本経済新聞 2021/11/06

2021:8./ 11p,206p
978-4-00-431890-3

¥880〔税込〕



死者と霊性～近代を問い直す～(岩波新書 新赤版 1891)

末木 文美士 著

岩波書店

大震災、原発事故、コロナ禍は見えざるものの力を知らしめた。死者たちと私たちの関係にも、いま変化が生じている。独自の思索を続けてきた5名が、死者と霊性をキーワードに、新たな時代の哲学と宗教の再興に向けて語り合う。

日本経済新聞 2021/11/06

2021:8./ 3p,256p
978-4-00-431891-0

¥946〔税込〕





神曲<地獄篇>(講談社学術文庫 2242)

ダンテ・アリギエリ 著

講談社

古代詩人ウェルギリウスに導かれて巡る地獄。そこでダンテは、生前に悪をなし責め苛まれている教皇、聖職者、政敵たちを発見する。「神曲」を原典に忠実かつ読みやすい新訳で収録。最新の研究の成果に基づく丁寧な解説も付す。

日本経済新聞 2021/11/06

2014:6./ 633p
978-4-06-292242-5

¥1,782〔税込〕



神曲<煉獄篇>(講談社学術文庫 2243)

ダンテ・アリギエリ 著

講談社

地獄を離れ到達したのは地上での七つの大罪を贖う場=煉獄だった。ダンテはここで身を浄め、自らを高めていく。知の麗人ベアトリーチェを案内人にして、ダンテは天国へと昇る…。中世ヨーロッパ最高の叙事詩「神曲」の新訳。

日本経済新聞 2021/11/06

2014:7./ 644p
978-4-06-292243-2

¥1,870〔税込〕



神曲<天国篇>(講談社学術文庫 2244)

ダンテ・アリギエリ 著

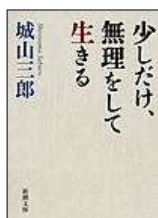
講談社

神の力が横溢する十天からなる天国で、聖ベルナルの案内によりダンテはついに神と出会う。神との合一を果たし、三位一体の神秘を直観して、三界をめぐる旅は大団円を迎える…。中世ヨーロッパ最高の叙事詩「神曲」の新訳。

日本経済新聞 2021/11/06

2014:8./ 660p
978-4-06-292244-9

¥1,760〔税込〕



少しだけ、無理をして生きる(新潮文庫 し-7-36)

城山 三郎 著

新潮社

視界ゼロ時代には、魅力ある人間だけが生き残る。苦境にあっても自らの信念を貫いた男たちの生き様を通して、人間の「真の魅力」とは何かを語り尽くす。

日本経済新聞 2021/11/06

2012:8./ 200p
978-4-10-113337-9

¥506〔税込〕



どうやら僕の日常生活はまちがっている

岩井 勇気 著

新潮社

あの不敵な笑みを浮かべながら、平凡な毎日に一撃を食らわせる。ハライチ岩井のエッセイ集第2弾。初小説も収録する。『小説新潮』『Book Bang』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

日本経済新聞 2021/11/06

2021:9./ 206p
978-4-10-352882-1

¥1,375〔税込〕





ゴビ砂漠からの脱出〜私の中国/アメリカ物語〜

ウェイジャン・シャン 著

金融財政事情研究会

中国の小学校を卒業後、ゴビ砂漠で農業に従事し、アメリカのウォートン校での教職を経て、アジア有数の投資会社の会長兼 CEO となった著者の回想録。ゴビ砂漠での日々やアメリカ文化との出会いをユーモアあふれる筆致で綴る。

日本経済新聞 2021/11/06

2021:7./ 18p,580p 図

版 16p

978-4-322-13560-2

¥4,180〔税込〕



日本の食と農の未来〜「持続可能な食卓」を考える〜(光文社新書 1153)

小口広太 著

光文社

「食の海外依存」「国内農業の荒廃」というリスクを抱える日本。今、食と農についてどう考え、どう行動すべきなのか。現場の新しい動きにも着目しながら、日々の暮らしの中で手の届く範囲の「等身大の自給」について考える。

日本経済新聞 2021/11/06

2021:9./ 242p

978-4-334-04560-9

¥902〔税込〕



神道<いのち>を伝える

葉室 頼昭 著

春秋社

いのちとは何か。生きるとは何か。この簡明な問いに、人は応えることができるか...? 春日大社前宮司にして医学博士の著者が、<いのち>の真実を語る。

日本経済新聞 2021/11/06

2013:10./ 7p,230p 図

版 8 枚

978-4-393-29934-0

¥1,760〔税込〕



「世間」心得帖(ちくま文庫 あ 26-11)

坂崎 重盛 編

嵐山 光三郎 著

筑摩書房

若き日に学んだ「世間」、万華鏡のように千変万化する文士の「世間」。「世間」は学問のレベルをはるかに超越した虚空にある...。嵐山光三郎が、ユーモアと博識、練達の筆で「世間」の正体を明らかにする。

日本経済新聞 2021/11/06

2021:10./ 227p

978-4-480-43773-0

¥858〔税込〕



『貞観政要』に学ぶリーダー哲学

竹内 良雄、川崎 享 著

東洋経済新報社

中国歴代皇帝のなかでも屈指の名君、唐の第二代皇帝・太宗とその臣下との対話を記した「貞観政要」の中から、組織のトップリーダーを志す人に役立つ言葉を紹介する。漢文も掲載。

日本経済新聞 2021/11/06

2018:4./ 281p

978-4-492-96138-4

¥1,650〔税込〕





全一冊 豊臣秀長～ある補佐役の生涯～(PHP 文庫 さ 7-15)

堺屋太一 著

PHP 研究所

野心家の兄・秀吉を天下人たらしめ、自らも“大和大納言”と呼ばれるまでにのぼりつめた男・豊臣秀長。卓越した実務能力と抜群の調整力、非凡な統治能力で、脆弱な豊臣家の体制を支え続けた男の生涯を丹念に描く。

日本経済新聞 2021/11/06

2015/3./ 761p
978-4-569-76343-9

¥1,210〔税込〕



婚活食堂<1>(PHP 文芸文庫 や 6-2)

山口 恵以子 著

PHP 研究所

東京・四谷のめぐみ食堂は、元人気占い師の女将・恵が一人で切り盛りするおでん屋。ある事情から“見る力”を失っていた恵だが、結婚のさまざまな悩みを抱える常連客と接するうち、男女の縁が見えるように…。レシピも掲載。

日本経済新聞 2021/11/06

2019/9./ 268p
978-4-569-76954-7

¥748〔税込〕



ウイスキー・ウーマン～バーボン、スコッチ、アイリッシュ・ウイスキーと女性たちの知られざる歴史～

フレッド・ミニック 著

明石書店

徴税人の横暴に屈することなく密造を続けたアイルランドの女性蒸留家、禁酒法時代に酒の密輸で巨万の富を築いた「バハマの女王」…。古代メソポタミアから現代まで、男性中心の酒の歴史に隠れた女性たちの活躍を描く。

日本経済新聞 2021/11/06

2021/8./ 285p 図版
24p
978-4-7503-5242-8

¥2,970〔税込〕



世界の SDGs 都市戦略～デジタル活用による価値創造～

櫻井 美穂子 著

学芸出版社

地球規模で複雑化する社会課題に都市はどう適応できるのか？ レジリエンスをキーワードに、世界 20 の都市戦略と実践から持続可能な街づくりのヒントを読み解く。都市の進化を支える ICT とデータ活用についても解説。

日本経済新聞 2021/11/06

2021/7./ 254p
978-4-7615-2783-9

¥2,640〔税込〕



新釈古事記伝

阿部國治／栗山要 著

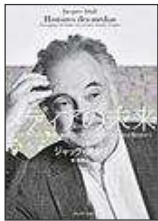
致知出版社

原始日本人の叡智と祈りの結晶である「古事記」の入門書。阿部國治が「古事記」の原典と「古訓古事記」を心読、体読、苦読して、わかりやすく現代文に訳し、原文・書き下し文とともに収録する。

日本経済新聞 2021/11/06

2014/4./ 7 冊
978-4-8009-1034-9
¥13,200〔税込〕





メディアの未来～歴史を学ぶことで、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、SNS の将来は導き出せる～

ジャック・アタリ、林昌宏 著
プレジデント社

2050 年、2100 年、ジャーナリストという職業はこれまで以上に重要になる。欧州最高峰の知性による、メディアに関する文明論と未来論。数千年の歴史から「メディアの法則」を導き出し、数十年後の未来を予測する。

日本経済新聞 2021/11/06

2021.9./ 544p,38p
978-4-8334-2429-5

¥3,630〔税込〕



骨を引き上げろ

ジェスミン・ウォード 著
作品社

アメリカ南部ミシシッピ州に住む貧困層の黒人一家。子を宿した 15 歳の少女エシュと、過酷な社会環境に立ち向かう家族や仲間たち。そこへ、彼らの運命を一変させる巨大ハリケーン、カトリーナが襲来し...

日本経済新聞 2021/11/06

2021.9./ 311p
978-4-86182-865-2

¥2,860〔税込〕



土中環境～忘れられた共生のまなざし、蘇る古の技～

高田宏臣 著
建築資料研究社

庭師(造園家)の職域には、土中の環境を整える作業が含まれている。土木技術はいかにして環境を守ってきたのか、そしてその技術は現代を生きる我々にどのように活かされていくべきなのか、造園を生業とする著者が鋭く説く。

日本経済新聞 2021/11/06

2020.6./ 223p
978-4-86358-700-7

¥2,750〔税込〕



輝山

澤田瞳子 著
徳間書店

大森代官・岩田鉄三郎の身辺を探るため石見銀山にやって来た金吾。代官所の中間として働き始めた金吾は、危険と隣り合わせで働く掘子たちと出会い...。学芸通信社の配信により『京都新聞』等に掲載したものに加筆修正し書籍化。

日本経済新聞 2021/11/06、産経新聞 2021/11/14

2021.9./ 438p
978-4-19-865189-3

¥1,980〔税込〕



ばにらさま

山本 文緒 著
文藝春秋

冴えない会社員の広志にできた彼女は色白でとびきり可愛い“ばにらさま”。彼女は、バナナアイスみたいに冷たい...。痛くて、切なくて、引きずり込まれる。日常の向こう側に見える心のあり様を捉えた 6 篇。

日本経済新聞 2021/11/06、朝日新聞 2021/11/13

2021.9./ 218p
978-4-16-391426-8

¥1,540〔税込〕





プラナリア(文春文庫)

山本 文緒 著
文芸春秋

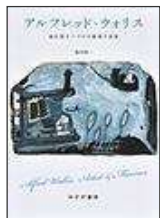
乳がんの手術以来、何もかも面倒くさい 25 歳の春香。出口を求めてさまよう「無職」の女たちを描いた直木賞受賞作、待望の文庫化

2005.9./ 283p
978-4-16-770801-6

¥682〔税込〕



日本経済新聞 2021/11/06、朝日新聞 2021/11/13



アルフレッド・ウォリス〜海を描きつづけた船乗り画家〜

塩田純一 著
みすず書房

イギリスの港町で船乗りとして働き、70 歳を過ぎて絵筆を握った画家アルフレッド・ウォリス。海にまつわる情景をモチーフに、素朴で愛らしい絵を描いた彼の生涯と作品を、日本での回顧展を企画した美術史家が辿る。

2021.9./ 238p, 12p 図

版 32p

978-4-622-08949-0

¥4,950〔税込〕



日本経済新聞 2021/11/06、読売新聞 2021/11/07



すばらしい人体〜あなたの体をめぐる知的冒険〜

山本 健人 著
ダイヤモンド社

唾液はどこから出ているのか？ おならは何でできているか？ 外科医が驚くべき人体のしくみを語るとともに、医学という学問の魅力を紹介。血液型や消毒液などについての“常識”にも触れる。折込みの全身図付き。

2021.7./ 374p

978-4-478-11327-1

¥1,870〔税込〕



日本経済新聞 2021/11/06、読売新聞 2021/11/14、朝日新聞 2021/11/27



荘園〜聖徳太子から桓武天皇まで〜(中公新書 2662)

伊藤 俊一 著
中央公論新社

平安後期から増大し、院政を行う上皇の権力の源となった荘園。国の秩序を乱したと見られがちだが、農業生産力向上や貨幣流通の進展に寄与した面もある。新知見もふまえ、中世社会の根幹だった荘園制の実像に迫る。

2021.9./ 4p, 281p

978-4-12-102662-0

¥990〔税込〕



日本経済新聞 2021/11/06、毎日新聞 2021/11/13、朝日新聞 2021/11/20



ごみ収集とまちづくり〜清掃の現場から考える地方自治〜(朝日選書 1023)

藤井誠一郎 著
朝日新聞出版

新型コロナ対策、大量廃棄、災害対策、労働差別…。清掃現場の労働体験と参与観察を通して、現場で活躍している人々や清掃行政、清掃差別の実態を活写。現代日本が向き合う課題と可能性を浮き彫りにする。

2021.8./ 264p, 9p

978-4-02-263110-7

¥1,650〔税込〕



日本経済新聞 2021/11/13



子ども介護者～ヤングケアラーの現実と社会の壁～(角川新書 K-368)

濱島 淑恵 著

KADOKAWA

祖父母や病気の親など、家族の介護を担う子どもたちに対し、国はようやく支援に動き出した。ヤングケアラー研究の第一人者が過酷な実態を明らかにし、当事者に寄り添った支援のあり方を探る。高校生自身への調査結果も公開。

日本経済新聞 2021/11/13

2021.9./ 238p
978-4-04-082284-6

¥990〔税込〕



ハロー、ユーラシア～21世紀「中華」圏の政治思想～

福嶋 亮大 著

講談社

なぜ今、ユーラシアなのか？帝国化する中国、香港の苦境、深刻な国家対立、ウイグル弾圧…。政治・思想・文学の地平から激動の根源を探る東アジア論。『群像』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

日本経済新聞 2021/11/13

2021.9./ 286p
978-4-06-524523-1

¥2,200〔税込〕



日本の古式捕鯨(講談社学術文庫 2680)

太地 五郎作／中沢 新一 著

講談社

古式捕鯨の体系とそれを支え担ってきた人々の思考と感情を繊細に表現した「熊野太地浦捕鯨乃話」などを収録。古式捕鯨にセットされた、日本のものづくり産業の原初形態を解き明かし、海民的日本文化を再考する。

日本経済新聞 2021/11/13

2021.10./ 151p
978-4-06-524720-4

¥968〔税込〕



長谷川京子おいしい記録

長谷川 京子 著

集英社

コーンスープと餃子の記憶、クロワッサンと焼き立てのバゲット、卯の花の郷愁、愛しきピーマン…。女優・長谷川京子が、おもに“食”をテーマに綴った、2児の母としての本音と素顔がのぞくエッセイ。『LEE』連載を書籍化。

日本経済新聞 2021/11/13

2021.9./ 223p
978-4-08-790051-4

¥1,760〔税込〕



黒い雨 改版(新潮文庫)

井伏 鱒二 著

新潮社

日本経済新聞 2021/11/13

2003.5./ 403p
978-4-10-103406-5

¥781〔税込〕





ヤングケアラー〜介護を担う子ども・若者の現実〜(中公新書 2488)

澁谷 智子 著

中央公論新社

家族の介護を行う 18 歳未満の子ども、ヤングケアラー。その現状について、調査データ、当事者の声、海外の事例、現在の取り組みを紹介。学業や日常生活に影響が及ぶ状況といかに向き合うべきかを考える。

日本経済新聞 2021/11/13

2018:5./ 6p,211p
978-4-12-102488-6

¥880〔税込〕



世界文学の名作を「最短」で読む〜日本語と英語で味わう 50 作〜(筑摩選書 0219)

棚木 伸明 編

筑摩書房

ホメロス、古事記、シェイクスピア、カフカ、ヴァージニア・ウルフ…。詩、小説、戯曲など古今東西の名作 50 作品の「おいしいところ」を集めたアンソロジー。バイリンガル(英語と日本語)のテキストと解説を収録する。

日本経済新聞 2021/11/13

2021:10./ 254p
978-4-480-01737-6

¥1,870〔税込〕



コンビニからアジアを覗く

佐藤 寛／アジアコンビニ研究会 編

日本評論社

コンビニ激震地、アジア。進出先の文化や社会に柔軟に適應しながら、進化し続ける日本型コンビニ。ローカルコンビニも、コンビニの進化に拍車をかける。コンビニを通して、既成概念を超える新しいアジア像を浮かび上がらせる。

日本経済新聞 2021/11/13

2021:7./ 14p,255p
978-4-535-55953-0

¥2,640〔税込〕



夕暮れに夜明けの歌を〜文学を探しにロシアに行く〜

奈倉有里 著

イースト・プレス

ロシアは今、どうなっているのか-。高校卒業後、単身ロシアに渡り、ロシア国立ゴーリキー文学大学日本人初の卒業生となった著者が、テロ・貧富・宗教により分断が進み、状況が激変していくロシアのリアルを活写する。

日本経済新聞 2021/11/13

2021:10./ 269p
978-4-7816-2012-1

¥1,980〔税込〕



子どもたちがつくる町〜大阪・西成の子育て支援〜

村上 靖彦 著

世界思想社

「日雇い労働者の町」と呼ばれる大阪・西成。生活保護受給率は 23%にのぼる。この町で型破りな子育て支援活動をする 5 人にインタビューし、自発的で変化に富んだセーフティネットを紹介する。

日本経済新聞 2021/11/13

2021:4./ 268p
978-4-7907-1753-9

¥2,750〔税込〕





厄介な遺産～日本近代文学と演劇的想像力～

福嶋 亮大 著
青土社

日本近代文学における演劇的想像力の機能について考察。さらにそれを通じて文学史の新たなパースペクティブを提案する。文学史に隠された遺産=亡霊をあざやかによみがえらせる野心的試み。「復興文化論」に続く文学評論。

日本経済新聞 2021/11/13

2016.7./ 314p,6p
978-4-7917-6943-8

¥2,640〔税込〕



マレー素描集

アルフィアン・サアット 著
書肆侃侃房

シンガポールで活動するマレー系作家による短編集。「ふれあわない手」「浅いフォーカス」「誕生日プレゼント」など 48 の掌編のつらなりから、現在のシンガポール社会を描き出す。

日本経済新聞 2021/11/13

2021.10./ 244p
978-4-86385-464-2

¥2,200〔税込〕



私のいない部屋

レベッカ・ソルニット、東辻賢治郎 著
左右社

父の DV から逃れるようにサンフランシスコに住み、安宿で生活の糧を得、女に向けられる好奇と暴力をくぐり抜けた-。“マンスプレイニング”を世に広めた新時代のフェミニズムを代表する作家ソルニットの歩んだストーリー。

日本経済新聞 2021/11/13

2021.10./ 301p
978-4-86528-046-3

¥2,640〔税込〕



説教したがる男たち

レベッカ・ソルニット、ハーン小路恭子 著
左右社

相手が女性と見るや講釈を垂れたがる男たちが、どこにでもいること自体が、女性たちが強いられている沈黙、世界の圧倒的な不正そのものだ。女性たちの口をつぐませ、ときに死に迫りやる暴力の構造をあばき出す。

日本経済新聞 2021/11/13

2018.9./ 205p
978-4-86528-208-5

¥2,640〔税込〕



ノーベル文学賞が消えた日～スウェーデンの#MeToo 運動、女性たちの闘い～

マティルダ・ヴォス・グスタヴソン 著
平凡社

2018 年 5 月、ひとつのニュースが世界中を駆けめぐった。今年のノーベル文学賞は発表中止-。関係者による性暴力事件、選考組織内部の権力抗争・女性差別を告発した渾身のルポ。

日本経済新聞 2021/11/13、産経新聞 2021/11/14

2021.9./ 341p
978-4-582-82492-6

¥2,530〔税込〕





Z世代マーケティング～世界を激変させるニューノーマル～

ジェイソン・ドーシー、デニス・ヴィラ 著
ハーパーコリンズ・ジャパン

1996?2012年に生まれ、幼い頃からデジタルデバイスに触れ、多感な年頃にコロナ禍を経験したZ世代。彼らはどのようにしてモノを買い、何を求め、どんな人生を理想とするのか。Z世代の行動様式を詳細に読み解く。

日本経済新聞 2021/11/13、産経新聞 2021/11/14

2021:10./ 349p
978-4-596-01529-7

¥2,090〔税込〕



ジョブ型雇用社会とは何か～正社員体制の矛盾と転機～(岩波新書 新赤版 1894)

濱口 桂一郎 著
岩波書店

間違いだらけのジョブ型論を一刀両断! ジョブ型とは何かを改めて説明した上で、ジョブ型とメンバーシップ型の対比を用いて、日本の雇用システムの隠された問題点に切り込む。

日本経済新聞 2021/11/13、朝日新聞 2021/11/20

2021:9./ 10p,293p
978-4-00-431894-1

¥1,122〔税込〕



アメリカ副大統領～権力への階段～

ケイト・アンダーセン・ブラウワー、笠井亮平 著
白水社

ニクソンからゴア、チェイニー、バイデン、ペンスまで。ホワイトハウスの取材を重ねたベテラン・ジャーナリストが、正副大統領の力関係と人間模様を軸に、「ナンバー2」の視点から、アメリカ政治の中枢を描く。

日本経済新聞 2021/11/13、朝日新聞 2021/11/20

2021:9./ 392p,18p 図
版 16p

978-4-560-09861-5

¥3,740〔税込〕



それでも映画は「格差」を描く(インターナショナル新書 「最前線の映画」を読む 084 Vol.3)

町山 智浩 著
集英社インターナショナル

労働者から人権を奪い、生活限界まで搾取する傾向はコロナ禍によって拍車がかかっている。「ジョーカー」「万引き家族」など、世界の映画作家たちが現代社会を覆い尽くす「格差と貧困」を描いた作品を取り上げ、徹底解剖する。

日本経済新聞 2021/11/13、朝日新聞 2021/11/20

2021:10./ 269p
978-4-7976-8084-3

¥990〔税込〕



都鄙大乱～「源平合戦」の真実～

高橋 昌明 著
岩波書店

「平家物語」等に華々しく描かれる<源平合戦>の真の姿は、全国の田畠を荒廃させ、多数の死者を出した苛烈な<内乱>だった。物語の背後に消えた中下級武士や民衆の痕跡を同時代史料に求め、<内乱>の実像を克明に描出する。

日本経済新聞 2021/11/20

2021:9./
18p,322p,13p
978-4-00-061491-7

¥3,080〔税込〕





**せいめいのれきし～地球上にせいめいがうまれたときからいままでのおはなし
～ 改訂版**

バージニア・リー・バートン 著

岩波書店

地球のうえでの生命の歴史。それは、序幕はあっても終幕のない、おおきなおおきな劇。銀河系の誕生から現在のひとびとの生活までを、バートンが美しい絵とリズムのある文で紹介しします。最新の知見に合わせて見直した改訂版。

日本経済新聞 2021/11/20

2015:7./ 76p
978-4-00-111250-4

¥1,870〔税込〕



日本童謡集(岩波文庫)

与田 準一 編

岩波書店

日本経済新聞 2021/11/20

1957:12./ 315p
978-4-00-310931-1

¥814〔税込〕



ジヴェルニーの食卓(集英社文庫 は44-2)

原田 マハ 著

集英社

マティス、ピカソ、ドガ、セザンヌら印象派たちの、葛藤と作品への真摯な姿を描いた4つの物語。新しい美を求め、時代を切り拓いた芸術家の人生が色鮮やかに蘇る。

日本経済新聞 2021/11/20

2015:6./ 276p
978-4-08-745327-0

¥616〔税込〕



古都 改版(新潮文庫 か-1-16)

川端 康成 著

新潮社

日本経済新聞 2021/11/20

2010:1./ 278p
978-4-10-100121-0

¥605〔税込〕



潮騒 新版(新潮文庫 み-3-7)

三島 由紀夫 著

新潮社

古代の伝説が息づく伊勢湾の小島で、遅しく日焼けした海の若者新治は、目もとの涼しげな少女初江に出会う。嵐の日、島の廃墟で二人きりになるのだが…。みずみずしい肉体と恋の行方は？

日本経済新聞 2021/11/20

2020:11./ 226p
978-4-10-105044-7

¥572〔税込〕



金閣寺 新版(新潮文庫 み-3-8)

三島 由紀夫 著

新潮社

吃音と醜い外貌に悩む学僧・溝口にとって、金閣は世界を超脱した美そのものだった。ならばなぜ、彼は憧れを焼いたのか？ 金閣放火事件に材を取り、31歳の三島由紀夫が自らの内面全てを託した不朽の名作。

日本経済新聞 2021/11/20

2020:11./ 383p
978-4-10-105045-4

¥737〔税込〕





三好一族～戦国最初の「天下人」～(中公新書 2665)

天野 忠幸 著

中央公論新社

数々の名将を輩出した華麗なる一族・三好氏。全盛期の当主長慶は覇業に邁進し、やがて足利將軍家の権威に抛らない政権を樹立した。その血脈は江戸時代になっても旗本として存続する。信長に先駆けて天下に号令した一族の軌跡。

日本経済新聞 2021/11/20

2021.10./ 5p,210p
978-4-12-102665-1

¥902〔税込〕



ポスト・ヒューマニズム～テクノロジー時代の哲学入門～(NHK 出版新書 664)

岡本 裕一郎 著

N H K 出版

なぜいま、哲学で「人間」が大きな問題となっているのか。「思弁的実在論」「加速主義」「新実在論」といった現代哲学を解説しながら、論点をわかりやすく整理。起こりつつある思想の地殻変動を描き出す。

日本経済新聞 2021/11/20

2021.10./ 238p
978-4-14-088664-9

¥968〔税込〕



モビリティ・ゼロ～脱炭素時代の自動車ビジネス～

深尾 三四郎 著

日経B P 社

脱炭素の背景にあるポリシーメーカー(政策立案者)の狙いや、排出量を通貨に変える鍊金術について分析。ゲームチェンジの時代に対応するための考え方を説き、EV 化に遅れる日本企業が競争力を発揮するための方策を提言。

日本経済新聞 2021/11/20

2021.10./ 267p
978-4-296-00044-9

¥2,420〔税込〕



女たちのポリティクス～台頭する世界の女性政治家たち～(幻冬舎新書 ふ-21-1)

ブレイディ みかこ 著

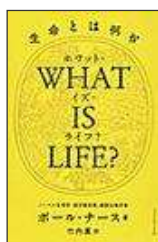
幻冬舎

ポリティクスという究極の「男社会」で、各国の女性指導者たちはどのように闘い、上り詰めていったのか。その政治的手腕を、激動の世界情勢と共に解き明かす。大幅に遅れる日本の問題にも言及する。『小説幻冬』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2021/11/20

2021.5./ 262p
978-4-344-98623-7

¥990〔税込〕



WHAT IS LIFE?～生命とは何か～

ポール・ナース 著

ダイヤモンド社

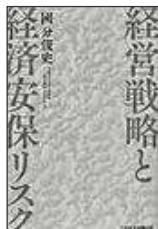
ノーベル生理学・医学賞を受賞した細胞生物学者ポール・ナースが、「生命とは何か」という人類の永遠の疑問に、現代生物学の知見を踏まえて答える。近代科学 400 年の集大成とも言える、新しい生命論。

日本経済新聞 2021/11/20

2021.3./ 269p
978-4-478-11107-9

¥1,870〔税込〕





経営戦略と経済安保リスク

國分 俊史 著

日本経済新聞出版社

経済安全保障に日本企業はどのように対応すべきか。経営戦略、研究開発、組織風土文化、経営管理、財務管理、リスクマネジメント、ガバナンス、人事管理、サプライチェーン、情報システムという機能ごとに解説する。

日本経済新聞 2021/11/20

2021:9./ 268p
978-4-532-32426-1

¥2,750〔税込〕



米兵はなぜ裁かれないのか

信夫隆司 著

みすず書房

刑事裁判権を中心に、NATO 軍、フィリピン、韓国、ドイツ等の具体的事例と比較検討。日米行政協定・地位協定下の米兵犯罪の実態を実証的に明らかにし、実現可能な日米地位協定の改善策を提示する。

日本経済新聞 2021/11/20

2021:9./ 285p,6p
978-4-622-09038-0

¥4,180〔税込〕



WILDHOOD 野生の青年期～人間も動物も波乱を乗り越えおとなになる～

バーバラ・N・ホロウィッツ／キャスリン・バウアーズ 著

白揚社

あまりにも人に似た、動物の若者たちの驚くべき生態とは？安全、ステータス、セックス、自立。太古より無数の動物が体験してきた道程を、キングペンギンやプチハイエナなど、4匹の野生動物の成長物語として描き出す。

日本経済新聞 2021/11/20

2021:10./ 461p
978-4-8269-0231-1

¥3,300〔税込〕



共感する人～ホモ・エンパシクスへ、あなたを変える六つのステップ～ (Kakuichi Institute Holistic Study Series)

ローマン・クルツナリック、田中 一明、荻野 高拓 著

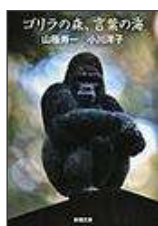
ぶねうま舎

自分の殻を打ち破る演技をする俳優、活動家、デザイナーなど、多様な境遇の共感する人たちの人生を紹介。また、近現代の社会と思想の流れを一望し、様々な今日的危機の由来を解きほぐして、先駆的な「共感の哲学」を紡ぎ出す。

日本経済新聞 2021/11/20

2019:4./ 351p,17p
978-4-906791-85-9

¥3,080〔税込〕



ゴリラの森、言葉の海(新潮文庫 や-74-2)

山極 寿一／小川 洋子 著

新潮社

物語の森を知る作家・小川洋子とゴリラの眼を持つ霊長類学者・山極寿一が、京都で、屋久島で語り尽くす。ゴリラを通して現代に生きるヒトの姿が鮮やかに浮かび上がる、知のフィールドワーク。

日本経済新聞 2021/11/20、朝日新聞 2021/11/27

2021:11./ 291p
978-4-10-126592-6

¥649〔税込〕





問題の女～本荘幽蘭伝～

平山 亜佐子 著

平凡社

新聞記者、保険外交員、ホテルオーナー、女優、日本語教師、講談師…。転職 50 回以上、50 人近い夫と 120 人以上の交際相手を持ち、アジア各地に神出鬼没。明治・大正・昭和を駆け抜けた女傑、本荘幽蘭の生涯を追う。

日本経済新聞 2021/11/20、東京・中日新聞 2021/11/21、読売新聞 2021/11/28

2021.10./ 342p
978-4-582-83864-0

¥3,080〔税込〕



公共図書館を育てる

永田 治樹 著

青弓社

デジタル時代の公共図書館のあり方とは。海外の図書館経営の手法を紹介し、公共図書館とコミュニティの関わりをイギリスの事例をもとに検討。家庭と職場以外の心地よい空間として世界的に有名な北欧の図書館も取り上げる。

日本経済新聞 2021/11/20、読売新聞 2021/11/21

2021.10./ 219p
978-4-7872-0078-5

¥2,860〔税込〕



ヨーロッパ・コーリング・リターンズ～社会・政治時評クロニクル 2014-2021～(岩波現代文庫 社会 330)

ブレイディ みかこ 著

岩波書店

人か資本か。優先順位を間違えた政治は、希望を奪い、貧困と分断を拡大させる。英国の暮らしと政治を独自の視点で読み解く。パンデミックの影響の推移を捉えた記事を含む、7 年半にわたる論考を収録。

日本経済新聞 2021/11/27

2021.11./ 11p,478p
978-4-00-603330-9

¥1,265〔税込〕



城山三郎昭和の戦争文学<第 5 巻> 落日燃ゆ

城山 三郎 著

角川書店

開戦に反対の立場を貫きながら、東京裁判で絞首刑を宣告された唯一の文官・広田弘毅。「自ら計らわぬ」を信条に一切の自己弁護を放棄し、苛酷な運命に従ったその生涯を描いて、戦争責任の意味を深く問う。

日本経済新聞 2021/11/27

2005.10./ 445p
978-4-04-574534-8

¥2,090〔税込〕



戦争調査会～幻の政府文書を読み解く～(講談社現代新書 2453)

井上 寿一 著

講談社

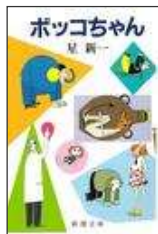
敗戦直後、幣原喜重郎内閣が設置した「戦争調査会」。多数の戦犯逮捕、公文書焼却という困難のなかおこなわれた 40 回超の会議の史料を通して、開戦・敗戦の実相に迫る。

日本経済新聞 2021/11/27

2017.11./ 259p
978-4-06-288453-2

¥968〔税込〕





ボッコちゃん 改版(新潮文庫)

星 新一 著

新潮社

日本経済新聞 2021/11/27

1988:1./ 315p
978-4-10-109801-2

¥693〔税込〕



星新一〜一〇〇話をつくった人〜<上>(新潮文庫)

最相 葉月 著

新潮社

日本経済新聞 2021/11/27

2010:3./ 404p
978-4-10-148225-5

¥737〔税込〕



「感染」の社会史〜科学と呪術のヨーロッパ近代〜(中公選書 121)

村上 宏昭 著

中央公論新社

病気をもたらす微生物への恐怖と不安は、効果的な感染予防の福音を伝えた一方で、ジェノサイドも招いた。19世紀末の「細菌学革命」にまつわる光と影、その後のヨーロッパ世界の激動を、臨場感溢れる多数の図版とともに追う。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:11./ 6p,356p
978-4-12-110121-1

¥2,200〔税込〕



香港政治危機〜圧力と抵抗の 2010 年代〜

倉田 徹 著

東京大学出版会

2012 年「愛国教育」の必修化に反対する抗議集会、2014 年民主化を求める「雨傘運動」、2020 年「香港国家安全維持法」の施行…。気鋭の研究者が、この 10 年で大きく変わった香港の軌跡を多角的な視点から分析する。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:9./ 5p,417p,31p
978-4-13-033110-4

¥3,520〔税込〕



いろいろ

上白石 萌音 著

N H K 出版

何気ない日常の断片や、よぎる思いを綴った全 50 篇のエッセイ、ゆかりの地を巡った故郷・鹿児島島のルポ、初創作となる短篇小説、日々を点描するフィルムカメラスナップ…。上白石萌音のありのままの本音が満載の作品集。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:9./ 221p
978-4-14-081863-3

¥1,980〔税込〕



猫を棄てる〜父親について語るとき〜

村上 春樹 著

文藝春秋

時が忘れさせるものがあり、そして時が呼び起こすものがある。中国での戦争経験を持つ父親の記憶を引き継いだ作家が父子の歴史と向き合う。初めて自らのルーツを綴ったノンフィクション。『文藝春秋』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2021/11/27

2020:4./ 101p
978-4-16-391193-9

¥1,320〔税込〕





ニュースの未来(光文社新書 1151)

石戸諭 著

光文社

テレビ、新聞、出版…。ニュースを巡る環境が悪化するなか、これらのメディアに未来はないのか？ 気鋭のノンフィクションライターが、ニュースの本質とその未来に迫る、新時代のメディア論。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:8./ 285p
978-4-334-04559-3

¥946〔税込〕



新聞記者、本屋になる(光文社新書 1154)

落合博 著

光文社

読書家ではなくても本屋は始められる！ 定年目の 58 歳、子どもは 3 歳、書店員経験はゼロの元新聞記者が、妻の反対を押し切って本屋を開業するまでのこと、本屋での日々のこと、考えていることを綴る。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:9./ 219p
978-4-334-04561-6

¥1,034〔税込〕



世界を貧困に導くウォール街を超える悪魔

ニコラス・シャクソン 著

ダイヤモンド社

オフショアのタックスヘイブン、世界的巨大企業の台頭で加速する独占化、「競争力政策」に秘められた悪意…。イギリスのジャーナリストが、世界経済のたどってきた道を紐解きつつ、意図的につくられた格差の構造を告発する。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:11./ 485p
978-4-478-10934-2

¥2,420〔税込〕



日本の美意識で世界初に挑む

細尾 真孝 著

ダイヤモンド社

ビジネスに創造と革新をもたらす秘訣とは？ 美への投資がリターンを生む経営とは？ 京都の伝統産業「西陣織」で海外マーケット、ラグジュアリーブランド市場をいち早く開拓した経営者の仕事論・経営論。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:9./ 260p
978-4-478-11237-3

¥1,650〔税込〕



星新一の思想～予見・冷笑・賢慮のひと～(筑摩選書 0220)

浅羽 通明 著

筑摩書房

星新一とは何か。シニカルにきらめく千余のショートショート。高度に知的なエッセイ。戦後日本をはるか遠方から問い直し、近代の人間観を解体しつつとした SF 小説群。SF 作家にして懐疑的思索者、星新一の全仕事を読み解く。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:10./ 445p
978-4-480-01738-3

¥2,200〔税込〕





アフリカ経済の真実～資源開発と紛争の論理～(ちくま新書 1504)

吉田 敦 著

筑摩書房

豊かな資源があるのに、なぜ貧しいのか？ アフリカの貧困には先進国の人々も大きく関わっている。アルジェリア、コンゴなど各国の問題点や世界的な搾取の構造を、マクロな視点とフィールドワークで得た経験により解明する。

日本経済新聞 2021/11/27

2020:7./ 303p,10p
978-4-480-07319-8

¥1,034〔税込〕



はじめての昭和史(ちくまプリマー新書 356)

井上 寿一 著

筑摩書房

改憲論議、格差社会、日米関係、メディアと世論...いま議論になっている問題のはじまりは昭和にあった！ 右や左の思想がはいりこみ、真実がみえにくい昭和史の中から最低限知っておくべきことをまとめる。

日本経済新聞 2021/11/27

2020:8./ 222p
978-4-480-68381-6

¥924〔税込〕



インドビジネス～ラストワンマイル戦略～

松本 勝男 著

日本経済新聞出版社

国の発展から取り残されたインドの人々のために、困難な環境に直面しながらもモノやサービスを提供する企業・団体を紹介。行政サービスや市場の対象から外れた人々を顧客とするラストワンマイルビジネスの現状を論じる。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:9./ 341p
978-4-532-32427-8

¥2,970〔税込〕



男の子みたいな女の子じゃないの？～トムボーイの過去、現在、未来～

リサ・セリン・デイヴィス 著

原書房

男の子のような服を着たがり、男の子の友達と遊ぶ娘と、周囲の反応。ジャーナリストである著者がその体験を新聞に寄稿したところ、議論が巻き起こり...。子どもを取り巻くジェンダーの問題の歴史と現在を考察する。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:10./ 305p,27p
978-4-562-05961-4

¥2,970〔税込〕



広田弘毅～常に平和主義者だった～(ミネルヴァ日本評伝選)

井上 寿一 著

ミネルヴァ書房

広田弘毅は外交官として欧米局長や駐ソ連大使などを経て、外相や首相を歴任。英米との協調を模索しつつ、中国政策をめぐる対軍部コントロールに苦慮する。東京裁判でA級戦犯として処刑された唯一の文官の生涯に迫る。

日本経済新聞 2021/11/27

2021:10./
15p,399p,9p
978-4-623-09268-0

¥3,850〔税込〕





かけがえない心(となりの国のものがたり 09)

チョ・ヘジン 著

亜紀書房

幼少期、海外養子縁組に出され、フランスで暮らすナナのもとに、妊娠の知らせと、自分の人生を追った映画への出演依頼が届き…。現代韓国の歴史の中で、なきものとされてきた人たちに、ひと筋の光を差し込む長編小説。

日本経済新聞 2021/11/27

2021.9./ 251p
978-4-7505-1714-8

¥1,760〔税込〕



フェイクニュースの生態系(青弓社ライブラリー 103)

藤代 裕之 著

青弓社

フェイクニュースはどのようにして生まれ、なぜ広がるのか。ソーシャルメディア、ミドルメディア、マスメディアの相互作用をニュース生態系として捉え、その構造を解明。新たなニュース生態系について考える。

日本経済新聞 2021/11/27

2021.9./ 281p
978-4-7872-3497-1

¥1,760〔税込〕



操作される現実～VR・合成音声・ディープフェイクが生む虚構のプロパガンダ～

サミュエル・ウーリー 著

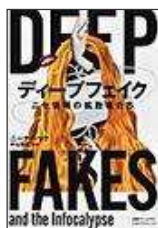
白揚社

仮想空間での思想教育、リアルな偽の映像・音声による世論操作…。AI や政治、ソーシャルメディアを専門とする研究者が、感覚をハックするデジタル時代がもたらす新たな問題を分析し、その解決策を模索する。

日本経済新聞 2021/11/27

2020.11./ 397p
978-4-8269-0222-9

¥3,190〔税込〕



ディープフェイク～ニセ情報の拡散者たち～

ナショナル ジオグラフィック 編

ニーナ・シック 著

日経ナショナルジオグラフィック社

誤情報やニセ情報を流す目的で作られた合成メディア「ディープフェイク」は民主主義と個人の自由を脅かす新たな武器となる! 国際的な政治とテクノロジーに関するアドバイザーとして活躍する著者による、未来への鋭い警告。

日本経済新聞 2021/11/27、東京・中日新聞 2021/11/28

2021.9./ 247p
978-4-86313-513-0

¥1,870〔税込〕



味の台湾

焦桐 著

みすず書房

担仔?、白湯猪脚、爆肉、臭豆腐、豆花、冬瓜茶…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る。台湾飲食文学の聖經と評された「味道福爾摩莎」から 60 篇を厳選して収録。

日本経済新聞 2021/11/27、読売新聞 2021/11/28

2021.10./ 8p,376p
978-4-622-09045-8

¥3,300〔税込〕





トマトの花～句集～

成田 一子 著

朔出版

息つぎに太陽を飲む泳ぎかな 青林檎齧り猿からやり直す 風船を放し孤島にゐるごと
し ゆつくりと卵にもどる日向ぼこ 黒猫にヨルと名付けて月を待つ 俳句結社『滝』を
父から継いだ成田一子の第1句集。

毎日新聞 2021/11/02

2021:10./ 137p
978-4-908978-69-2

¥2,420〔税込〕



* 9 7 8 4 9 0 8 9 7 8 6 9 2 *



赤毛のアン(新潮文庫)

モンゴメリ 著

新潮社

ちょっとした手違いから、グリーン・ゲイブルスの老兄妹に引き取られたやせっぽちの
孤児アン。初めは戸惑っていた2人も、明るいアンを愛するようになり、夢のように
美しいプリンス・エドワード島の自然の中で、アンは少女から乙女へと成長してゆく
――。愛に飢えた、元気な人參あたまのアンが巻き起す愉快な事件の数々に、人生の
厳しさと温かい人情が織りこまれた永遠の名作。

毎日新聞 2021/11/06

2008:2./ 529p
978-4-10-211341-7

¥825〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 2 1 1 3 4 1 7 *



日本の先史時代～旧石器・縄文・弥生・古墳時代を読みなおす～(中公新書 2654)

藤尾 慎一郎 著

中央公論新社

日本史の教科書で最初に出てくる、旧石器・縄文・弥生・古墳時代。近年、考古学の
発展や新資料の発掘に伴い、それぞれの時代の捉え方が大きく塗りかえられている。
各時代の「移行期」に焦点を当て、先史の実像を描き出す。

毎日新聞 2021/11/06

2021:8./ 4p,299p
978-4-12-102654-5

¥1,034〔税込〕



* 9 7 8 4 1 2 1 0 2 6 5 4 5 *



われらが痛みの鏡<上>(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 425-5)

ピエール・ルメートル 著

早川書房

ルイズは小学校の教師をするかたわら、週に一度、レストランでウェイトレスをし
ていた。常連客のひとりである老医師の奇妙な願いに応じてから、驚くべき事件に巻
き込まれてゆき...。「天国でまた会おう」3部作完結篇。

毎日新聞 2021/11/06

2021:6./ 366p
978-4-15-181455-6

¥990〔税込〕



* 9 7 8 4 1 5 1 8 1 4 5 5 6 *



われらが痛みの鏡<下>(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 425-6)

ピエール・ルメートル 著

早川書房

ドイツ軍機がパリに迫るなか、ルイズはまだ見ぬ兄の行方を求めて、パリを脱出す
る。だがロワール方面へと向かう道は避難民であふれ...。戦火にもあそばれる人々
による群像劇。「天国でまた会おう」3部作完結篇。

毎日新聞 2021/11/06

2021:6./ 351p
978-4-15-181456-3

¥990〔税込〕



* 9 7 8 4 1 5 1 8 1 4 5 6 3 *



鉄の時代(河出文庫 ク 14-1)

J・M・クッツェー 著

河出書房新社

末期ガンの痛みに耐えながら生きる 70 歳のミセス・カレン。ある日ホームレスとの奇妙な交流が始まる。彼女は最愛の娘への最期の手紙をその男に託す。暴力で分断された<鉄の時代>にノーベル賞作家が愛と恥と真実を問う。

毎日新聞 2021/11/06

2020:5./ 329p
978-4-309-46718-4

¥1,320〔税込〕



ダスクランズ

J.M.クッツェー、くぼた のぞみ 著

人文書院

ヴェトナム戦争末期、プロパガンダを練るエリート青年。18 世紀、南部アフリカで植民地の拡大に携わる白人の男。ふたりに取りつく妄想、暴力の甘美と地獄を驚くべき力業で描き取る。ノーベル賞作家クッツェーのデビュー作。

毎日新聞 2021/11/06

2017:9./ 237p
978-4-409-13038-4

¥2,970〔税込〕



「カムカムエヴリバディ」の平川唯一〜戦後日本をラジオ英語で明るくした人〜(PHP 文庫 ひ 41-1)

平川 洵 著

PHP 研究所

若くしてアメリカに渡り、ハリウッド映画に出演した後に帰国し、NHK アナウンサーを経て、英語教育に身を捧げることになり…。敗戦によって沈みがちな人びとの心を、ラジオ英語で明るくした平川唯一の生涯を活写する。

毎日新聞 2021/11/06

2021:9./ 333p
978-4-569-90148-0

¥902〔税込〕



経済学者が語るスポーツの力

佐々木 勝 著

有斐閣

スポーツによって得られる効果は、健康の維持・増進だけじゃない! 教育や労働の生産性に与える影響、スポーツ政策や行政が社会にもたらす効果など、スポーツの潜在力を、経済学の知見を用いながら解説する。

毎日新聞 2021/11/06

2021:10./ 5p,214p,23p
978-4-641-16585-4

¥2,310〔税込〕



北里柴三郎〜感染症と闘いつづけた男〜

上山明博 著

青土社

19 世紀末、香港を襲った致死性の感染症の最前線にたち、ペスト菌を発見した細菌学者・北里柴三郎の評伝。膨大な資料を詳細に調査し「感染症学の巨星」の足跡と実像を明らかにするとともに、その思想にまでも迫る。

毎日新聞 2021/11/06

2021:9./ 368p,6p
978-4-7917-7412-8

¥2,860〔税込〕





親鸞の信と実践(筑紫女学園大学人間文化研究所叢書)

宇治 和貴 著

法蔵館

親鸞の説いた浄土真宗とは、どのような実践をもたらす宗教か？ 親鸞が歴史社会のなかで信にもとづいて展開した実践とその構造を検証することで、真宗における実践論の基礎理論を確立する。

毎日新聞 2021/11/06

2021:8./ 307p,5p
978-4-8318-3844-5

¥3,300〔税込〕



サマータイム、青年時代、少年時代～辺境からの三つの<自伝>～

J.M.クツェー 著

インスクリプト

乾いた赤土の南アフリカの風景、懐かしく愛しき田舎者の人生-。事実と虚構を巧みに織り交ぜたナラティブが生ドラマを浮かび上がらせる。自意識と倫理の小説家、クツェーの自伝的三部作を収録。

毎日新聞 2021/11/06

2014:6./ 680p
978-4-900997-42-4

¥4,400〔税込〕



三流のすすめ

安田登 著

ミシマ社

三流=多流(いろいろなことができる人)。一人ひとりの可能性を最大限に大切にする三流の人の生き方を、古今東西の書物をひもときながら明らかにする。『MSLive!』のオンライン連続講座をもとに書籍化。

毎日新聞 2021/11/06

2021:7./ 255p
978-4-909394-54-5

¥1,760〔税込〕



美しいノイズ～SUPPOSE DESIGN OFFICE～

谷尻誠／吉田愛 著

主婦の友社

2020年に創立20周年を迎えた建築設計事務所サポーズデザインオフィス。常識を疑い、世の中を変えるために立ち向かってきた20年の軌跡をまとめる。手がけた物件の解説も収録。本体は背表紙なし糸綴じ。

毎日新聞 2021/11/06、産経新聞 2021/11/20

2021:10./ 925p
978-4-07-441075-0

¥4,180〔税込〕



中国料理の世界史～美食のナショナリズムをこえて～

岩間 一弘 著

慶應義塾大学出版会

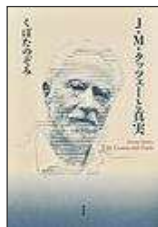
中国料理が形成され、広がっていく近現代のアジア・米欧諸国における政治・社会・国際情勢の変化を読み解く。同時に、日本人をはじめとする世界各国の人々が、中国料理の発展・普及に果たした役割を明らかにする。

毎日新聞 2021/11/06、朝日新聞 2021/11/13、読売新聞 2021/11/21

2021:9./ 571p,67p
978-4-7664-2764-6

¥2,750〔税込〕





J・M・クッツェーと真実

くばた のぞみ 著

白水社

ノーベル文学賞作家 J・M・クッツェーの翻訳を手がけてきた著者が、作品の奥に埋め込まれた「真実」を解き明かし、作家の実像に迫る。年譜・全著作リストも収録。

2021:10./ 327p
978-4-560-09868-4

¥2,970〔税込〕



毎日新聞 2021/11/06、朝日新聞 2021/11/20、日本経済新聞 2021/11/20



J・M・クッツェー少年時代の写真

ハーマン・ウィッテンバーグ 編

J・M・クッツェー 著

白水社

アパルトヘイトが強化されていく 1950 年代、作家・クッツェー自身がケープタウンのカレッジ時代(12 歳?16 歳頃)に撮影した貴重な写真 131 点とその分析を収録。クッツェーのインタビューも掲載。

2021:10./ 197p
978-4-560-09869-1

¥3,740〔税込〕



毎日新聞 2021/11/06、朝日新聞 2021/11/20、日本経済新聞 2021/11/20



じんかん

今村 翔吾 著

講談社

天正 5 年のある晩、織田信長のもとへ急報が。信長に忠誠を尽くしていたはずの松永久秀が 2 度目の謀叛を企てたという。だが、意外にも信長は笑みを浮かべ、語り出したのは…。『小説現代』掲載に加筆修正し単行本化。

2020:5./ 509p
978-4-06-519270-2

¥2,090〔税込〕



毎日新聞 2021/11/06、朝日新聞 2021/11/27



塞王の楯

今村 翔吾 著

集英社

決して破られない石垣を造ろうとする石工の匡介。しかし、そこに立ちふさがるのは、どんな守りも打ち破るという彦九郎の砲。大津城を舞台に、信念をかけた職人の対決が幕を開ける。『小説すばる』連載を単行本化。

2021:10./ 552p
978-4-08-771731-0

¥2,200〔税込〕



毎日新聞 2021/11/06、朝日新聞 2021/11/27



マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か〜#MeToo に加われない男たち〜(集英社新書 1082)

杉田 俊介 著

集英社

#MeToo 運動など、女性の性別に伴う差別や不平等への意識が高まっている。他方、多くの男性は男性性や既得権、異性との向き合い方に戸惑っているのではないかな。そんな男性たちに応え、性差を超えた運動の可能性を提示。

2021:9./ 293p
978-4-08-721182-5

¥1,012〔税込〕



毎日新聞 2021/11/06、東京・中日新聞 2021/11/21



「木」から辿る人類史～ヒトの進化と繁栄の秘密に迫る～

ローランド・エノス、水谷淳 著

N H K 出版

「木」こそが歴史をつくった最も重要な鍵である。人類学・建築学・生体力学など幅広い研究をもとに、構造的な特殊性をもつ木と創意工夫に長けた人類の 700 万年にわたる関係を、斬新な視点で解き明かす。

毎日新聞 2021/11/06、読売新聞 2021/11/14

2021:9./ 365p
978-4-14-081874-9

¥2,530〔税込〕



マイケル・K(岩波文庫 32-803-1)

J.M.クッツェー 著

岩波書店

内戦の続く南アフリカ。マイケルは手押し車に病気の母親を乗せて、騒乱のケープタウンから内陸の農場をめざす…。国家の運命に翻弄されながら、どこまでも自由に生きようとする個人のすがたを描く。

毎日新聞 2021/11/06、日本経済新聞 2021/11/20

2015:4./ 311p
978-4-00-328031-7

¥924〔税込〕



モラルの話

J.M.クッツェー、くぼた のぞみ 著

人文書院

ノーベル賞作家が、「人間のモラル」の底を描いた 7 つの物語。読みすすめるうちに、欲望、ジェンダー、美、生命、加齢、死などの個別テーマが鎖のように絡まり響き合い、全体をつらぬく思想がじわりと浮かび上がる。

毎日新聞 2021/11/06、日本経済新聞 2021/11/20

2018:5./ 157p
978-4-409-13040-7

¥2,530〔税込〕



虚魚(そらざかな)

新名 智 著

KADOKAWA

“体験した人が死ぬ怪談”を探る怪談師の三咲は、“呪いか祟りで死にたい”カナちゃんと暮らしている。「釣り上げた人が死んでしまう魚がいる」という噂を耳にしたふたりは、その真偽を調べるうちに“本物”の怪談に近づき…。

毎日新聞 2021/11/07、産経新聞 2021/11/28

2021:10./ 287p
978-4-04-111885-6

¥1,815〔税込〕



ものがたりの賊(やから)

真藤 順丈 著

文藝春秋

1923 年、大震災による被害で帝都は壊滅状態。さらに陸軍は胡乱な動きを見せ、致死の感染症も忍び寄る。そんな東京を救うため集められたのは、日本文学が生んだ名キャラクターたち!? 『別冊文藝春秋』等掲載を書籍化。

毎日新聞 2021/11/07、日本経済新聞 2021/11/20

2021:11./ 460p
978-4-16-391453-4

¥2,200〔税込〕





生きることとしてのダイアログ〜バフチン対話思想のエッセンス〜

桑野 隆 著

岩波書店

オープンダイアログなどで注目されるロシアの思想家バフチン。バフチン自身のテクストを紹介しながら、「心に染み入る言葉」「内的対話」「創造的理解」等、バフチン対話論のポイントをわかりやすく解説する。

毎日新聞 2021/11/13

2021:9./ 10p,172p,2p
978-4-00-061490-0

¥1,980〔税込〕



明治の寄席芸人〜六代目圓生コレクション〜(岩波現代文庫 文芸 334)

三遊亭 圓生 著

岩波書店

圓朝、圓遊など名人上手から知られざる芸人まで、160名余が記された明治27年の名簿「三遊社一覧」。幼い頃から寄席に出演した六代目三遊亭圓生の記憶をもとに、それぞれの芸、生き方、振る舞い、語り口などを綴る。

毎日新聞 2021/11/13

2021:8./
18p,415p,11p
978-4-00-602334-8

¥1,606〔税込〕



対訳 武士道(朝日新書 823)

新渡戸稲造 著

朝日新聞出版

世界に誇る、日本のこころ。勇気、礼儀正しさ、?をつかないこと…。新渡戸稲造が英語で著した世界的ベストセラー「武士道」。格調高い英語原文と、「翻訳の授業」の著者・山本史郎東大名誉教授による美しい日本語訳を収録。

毎日新聞 2021/11/13

2021:7./ 375p
978-4-02-295132-8

¥990〔税込〕



イップス〜魔病を乗り越えたアスリートたち〜(角川新書 K-372)

澤宮 優 著

KADOKAWA

大事な場面で手が動かない! 「イップス」を体験したプロ野球選手やプロゴルファーが、その症状を公開し、苦労や対処法を語る。指導者が克服のために採った練習方法や、イップスのメカニズムも取り上げる。

毎日新聞 2021/11/13

2021:10./ 273p
978-4-04-082397-3

¥1,056〔税込〕



馬場あき子全歌集

馬場 あき子 著

KADOKAWA

『早笛』から『あさげゆふげ』まで、現代短歌を代表する歌人・馬場あき子の全二十七歌集、約1万首を完全収録。半生をたどる口絵に加え、手帳メモも丹念にひろった詳細年譜や画期的な下句索引、上句索引を収載。

毎日新聞 2021/11/13

2021:9./ 1248p
978-4-04-884300-3

¥9,900〔税込〕





妊娠・出産をめぐるスピリチュアリティ(集英社新書 1080)

橋迫 瑞穂 著

集英社

近年、スピリチュアル市場で目立つ、「子宮系」「胎内記憶」「自然なお産」等の妊娠・出産をめぐるコンテンツ。「母」たる女性が抱く不安とスピリチュアリティとの危い関係について、その構造を解明する。

毎日新聞 2021/11/13

2021:8./ 220p
978-4-08-721180-1

¥946〔税込〕



レベルE<Vol.1> An alien on the planet(ジャンプ・コミックス)

富樫 義博 著

集英社

毎日新聞 2021/11/13

1996:3./ 199p
978-4-08-872071-5

¥429〔税込〕



レベルE<Vol.2> Here come Color ranger!!(ジャンプ・コミックス)

富樫 義博 著

集英社

毎日新聞 2021/11/13

1996:10./ 183p
978-4-08-872072-2

¥429〔税込〕



レベルE<Vol.3> Full moon...!(ジャンプ・コミックス)

富樫 義博 著

集英社

毎日新聞 2021/11/13

1997:5./ 221p
978-4-08-872073-9

¥429〔税込〕



憂行日記

斎藤 国夫 編

北 杜夫 著

新潮社

旧制松本高校で迎えた敗戦。登山、昆虫採集、友との語らい…。作家・北杜夫が昭和20年6月から昭和22年12月まで、6冊の大学ノートに記した「憂行日記」を翻刻。父・斎藤茂吉に触発された詩歌やスケッチも収録する。

毎日新聞 2021/11/13

2021:10./ 380p
978-4-10-306239-4

¥2,860〔税込〕



ほろよい読書(双葉文庫 お-42-01)

織守きょうや／坂井希久子／額賀 滯／原田ひ香／柚木麻子 著

双葉社

今をときめく作家達が「お酒」にまつわる人間ドラマを描いた心うるおす短編集。坂井希久子「初恋ソーダ」、額賀滯「醸造学科の宇一くん」、原田ひ香「定食屋「雑」」など、全5編を収録。『小説推理』掲載を文庫化。

毎日新聞 2021/11/13

2021:8./ 289p
978-4-575-52489-5

¥715〔税込〕





BOWIE'S BOOKS～デヴィッド・ボウイの人生を変えた 100 冊～

ジョン・オコーネル 著

亜紀書房

本はボウイの音楽と人生の羅針盤だった。2013 年に公開された「デヴィッド・ボウイが選ぶ 100 冊の本のリスト」をもとに、それぞれの本とボウイの人生や作品とのつながりを解き明かす。

毎日新聞 2021/11/13

2021.9./ 374p
978-4-7505-1716-2

¥2,420〔税込〕



ノンちゃん雲に乗る(福音館創作童話シリーズ)

石井桃子 著

福音館書店

女の子のノンちゃんは神社の境内にある大きなモミジの木に登りますが……。戦後出版されると同時に多くの読者に感銘を与えた名作。今も変わらぬ新鮮さに溢れた日本童話の古典です。

毎日新聞 2021/11/13

1997.4./ 278p

978-4-8340-0079-5

¥1,320〔税込〕



羊をめぐる冒険<上>(講談社文庫)

村上 春樹 著

講談社

野間文芸新人賞受賞作 1 通の手紙から羊をめぐる冒険が始まった 消印は 1978 年 5 月——北海道発 あなたのことは今でも好きよ、という言葉を残して妻が出て行った。その後広告コピーの仕事を通して、耳専門のモデルをしている 21 歳の女性が新しいガール・フレンドとなった。北海道に渡ったらしい<鼠>の手紙から、ある日羊をめぐる冒険行が始まる。新しい文学の扉をひらいた村上春樹の代表作長編。

毎日新聞 2021/11/20

2004.11./ 268p
978-4-06-274912-1

¥616〔税込〕



羊をめぐる冒険<下>(講談社文庫)

村上 春樹 著

講談社

青春 3 部作完結編 1982 年秋 僕たちの旅は終わる すべてを失った僕のラスト・アドベンチャー 美しい耳の彼女と共に、星形の斑紋を背中に持っているという 1 頭の羊と<鼠>の行方を追って、北海道奥地の牧場にたどりついた僕を、恐ろしい事実が待ち受けていた。1982 年秋、僕たちの旅は終わる。すべてを失った僕の、ラスト・アドベンチャー。村上春樹の青春 3 部作完結編。野間文芸新人賞受賞作。

毎日新聞 2021/11/20

2004.11./ 257p
978-4-06-274913-8

¥616〔税込〕





鴨川ランナー

グレゴリー・ケズナジャット 著

講談社

外国から京都に来た青年の日常や、周囲の扱い方に対する違和感、その中で生きる不安や葛藤等を「きみ」という二人称を用いた独特の文章で内省的に描く。日本語を母語としない著者が紡ぐ、新しい感性による越境文学。

毎日新聞 2021/11/20

2021:10./ 173p
978-4-06-524995-6

¥1,650〔税込〕



僕たちはどう生きるか〜言葉と思考のエコロジカルな転回〜

森田 真生 著

集英社

パンデミック、気候変動…。人類の自己破壊的な営みとともに、「日常」は崩壊しつつある。2020 年春からの「混沌」と「生まれ変わり」を記録した、四季折々のドキュメント・エッセイ。『すばる』掲載を単行本化。

毎日新聞 2021/11/20

2021:9./ 205p
978-4-08-771757-0

¥1,760〔税込〕



剛心

木内 昇 著

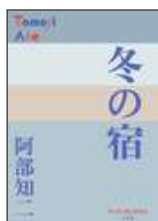
集英社

天涯孤独の身で 17 歳にして単身渡米。帰国後、西欧の新しい技術に学んだ“江戸の再興”を心に誓い、国会議事堂の建設へと心血を注ぎ…。近代日本の礎を築いた妻木頼黄の生涯を描く。『小説すばる』連載を単行本化。

毎日新聞 2021/11/20

2021:11./ 443p
978-4-08-771759-4

¥2,200〔税込〕



冬の宿(P+D BOOKS)

阿部 知二 著

小学館

霧島家の 6 畳間を借りている大学生の<私>。その主人・嘉門は自分勝手な暴れ者で、クリスチャンの妻・まつ子を泣かせてばかりだった。しかし<私>はなぜか嘉門を嫌いになれず…。表題作に「アルト・ハイデルベルヒ」を併録。

毎日新聞 2021/11/20

2021:10./ 219p
978-4-09-352425-4

¥715〔税込〕



災害情報〜東日本大震災からの教訓〜

関谷 直也 著

東京大学出版会

緊急時にますます必要不可欠となっている災害情報。気鋭の研究者が情報伝達と人々の心理や、関連する災害対策の課題など、あらゆる角度から分析し、社会科学の立場からあるべき情報を論じる。

毎日新聞 2021/11/20

2021:9./ 4p,629p
978-4-13-056126-6

¥5,940〔税込〕





時守たちのラストダンス

三萩 せんや 著

河出書房新社

高知から上京してきた高校1年の伊純は、同級生たちとダンスユニットを組むが、その裏で驚くべき計画が進行していた。異変が頻発する世界の救出に挑む、感動の青春ファンタジー。アニメPVを視聴できるQRコード付き。

毎日新聞 2021/11/20

2021.10./ 285p
978-4-309-02994-8

¥1,452〔税込〕



魚にも自分がわかる〜動物認知研究の最先端〜(ちくま新書 1607)

幸田 正典 著

筑摩書房

脊椎動物の中で最も“アホ”だと思われてきた魚。そんな魚が鏡を見て自分の体について寄生虫を取り除こうとする？ 脳の構造はヒトと同じ？ 「魚の自己意識」に取り組む世界で唯一の研究室が、動物の賢さをめぐる常識を覆す。

毎日新聞 2021/11/20

2021.10./ 254p
978-4-480-07432-4

¥990〔税込〕



寝るまえ5分のパスカル〜「パンセ」入門〜

アントワヌ・コンパニオン、広田昌義 著

白水社

考える葦、クレオパトラの鼻...パスカルの言葉は、なぜこれほどまでに刺さるのか？ 忘れがたい名句やイメージを数多く残した天才パスカルの、その思想の神髄に迫る。フランスのラジオ番組を書籍化したものを翻訳。

毎日新聞 2021/11/20

2021.9./ 206p
978-4-560-08910-1

¥2,090〔税込〕



ひこねのりおキャラクターあれこれ図鑑(コロナ・ブックス 226)

ひこね のりお 著

平凡社

カールおじさん、きのこの山たけのこの里、赤鬼と青鬼のタンゴなどを描いた、ひこねのりおの仕事を紹介する。ひこねのりおクロニクル、松田聖子らによるエッセイも掲載。ジャケットそでに切り取れるイラストあり。

毎日新聞 2021/11/20

2021.9./ 127p
978-4-582-63525-6

¥2,090〔税込〕



容疑者の夜行列車

多和田 葉子 著

青土社

旅人のあなたを待ち受ける奇妙な乗客と残酷な歓待。宙返りする言葉を武器にして、あなたは国境を越えてゆけるか。戦慄と陶酔の夢十三夜。

毎日新聞 2021/11/20

2002.6./ 163p
978-4-7917-5973-6

¥1,760〔税込〕





ケアマネジャーはらはら日記〜当年 68 歳、介護の困り事、おののきながら駆けつけます〜

岸山 真理子 著
フォレスト出版

当年 68 歳のケアマネジャーは、今日も介護の現場に駆けつけ…。多難すぎる日常、「老い」と「死」の最前線、人間関係などテーマに、著者が実際に体験したことを自身の極限状態における滑稽さを交えて日記形式で綴る。

毎日新聞 2021/11/20

2021:7./ 203p
978-4-86680-918-2

¥1,430〔税込〕



シェークスピア・カバーズ(SWITCH LIBRARY)

イッセー尾形 著
スイッチ・パブリッシング

シェイクスピア劇という種に、イッセー尾形の妄想と創造の慈雨が降りそそぐ。「ハムレット」「マクベス」など、名作戯曲をモチーフに、新たに紡がれた物語全 10 篇。『MONKEY』連載に書き下ろしを加え書籍化。

毎日新聞 2021/11/20

2021:9./ 446p
978-4-88418-566-4

¥3,520〔税込〕



詩の中にめざめる日本(岩波新書)

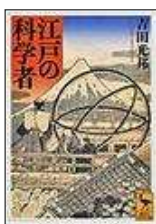
真壁 仁 著
岩波書店

ここには詩というかたちで、日本の民衆が自己を発見し社会を見出した記録がある。書き手は、療養者、海上労働者、銀行員、農民、教師、学生、主婦とひろく、主題は、広島からベトナム戦争まで多彩で、民衆が体験した戦後史である。それは、言葉の技術によってではなく、心の葛藤の深さによって読む人を感動させる。

毎日新聞 2021/11/27

1966:10./ 222p
978-4-00-414039-9

¥1,034〔税込〕



江戸の科学者(講談社学術文庫 2682)

吉田 光邦 著
講談社

和算家・関孝和、蘭学の始祖・杉田玄白から砲術家・坂本天山まで、江戸時代を代表する科学者たちの伝記集。幼少期や師匠とのエピソード、成し得た功績を通じて、江戸の科学や技術の発展の軌跡を描く。科学者小伝付き。

毎日新聞 2021/11/27

2021:9./ 301p
978-4-06-525058-7

¥1,265〔税込〕



医療崩壊真犯人は誰だ(講談社現代新書 2642)

鈴木 亘 著
講談社

いざという時に働かない一部の開業医、旧態依然の保健所、現場を把握できない厚生労働省、緊急事態宣言しか提言できない日本医師会…。世界有数の医療大国・日本が、医療提供体制の崩壊、危機的状況に陥った謎に迫る。

毎日新聞 2021/11/27

2021:11./ 187p
978-4-06-526417-1

¥946〔税込〕





米中対立～アメリカの戦略転換と分断される世界～(中公新書 2650)

佐橋 亮 著

中央公論新社

貿易戦争、科学技術開発競争、香港・台湾問題…。米国の対中姿勢は関与・支援から対立へとなぜ一変したのか。国交回復から現在まで、50年にわたる米中関係をたどり、米国の戦略が根本的に転換された背景を解説する。

毎日新聞 2021/11/27

2021:7./ 8p,308p
978-4-12-102650-7

¥1,034〔税込〕



西洋の没落<1>(中公クラシックス W93)

シュペングラー 著

中央公論新社

百年前に予見されたヨーロッパの凋落-。ドイツの哲学者・歴史学者であるシュペングラーが、世界史を形態学的に分析し諸文化を比較考察、西欧文化の運命を追究した不朽の名著の縮約版。

毎日新聞 2021/11/27

2017:6./ 19p,348p
978-4-12-160174-2

¥1,980〔税込〕



すごいトシヨリ散歩

池内 紀／川本 三郎 著

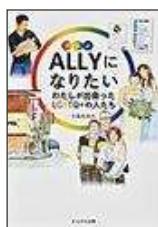
毎日新聞出版

トシをとると日々は楽しい。名エッセイスト2人が映画、読書、旅、そして老い支度について語り合った、親密感あふれるユニークな対談集。月刊誌『望星』連載を改題し書籍化。

毎日新聞 2021/11/27

2021:11./ 313p
978-4-620-32703-7

¥1,870〔税込〕



ALLYになりたい～わたしが会ったLGBTQ+の人たち～

小島あゆみ 著

かもがわ出版

「誰もが生きやすい社会」を目指すことは「個人として尊重される社会」を目指すこと。米国と日本で会った性的マイノリティたちのリアルな声を紹介する。性的マイノリティの味方、同盟者、支援者=ALLYになるための一冊。

毎日新聞 2021/11/27

2021:9./ 183p
978-4-7803-1186-0

¥1,760〔税込〕



仲人の近代～見合い結婚の歴史社会学～(青弓社ライブラリー 104)

阪井 裕一郎 著

青弓社

「結婚」や「家」と密接な関わりがあった仲人は、どのように広まり定着して、なぜ衰退に至ったのか。明治期から戦後に至る仲人の役割や見合い結婚のありようをたどり、近代日本の家族や結婚をめぐる価値観の変容を照射する。

毎日新聞 2021/11/27

2021:10./ 205p
978-4-7872-3499-5

¥1,760〔税込〕





知られざるアメリカの女性挿絵画家ヴァージニア・ステレット

マール社

ロマンティック+ゴシック+ギリシア+オリエンタル。独自の画風で挿絵黄金時代の最後を駆け抜けた、夭折の挿絵画家ヴァージニア・ステレット。31年という短い生涯の中で創作した、きらめくような作品のすべてを紹介する。

毎日新聞 2021/11/27

2021:11./ 128p
978-4-8373-0689-4

¥2,420〔税込〕



味な店〜完全版〜(MAGAZINE HOUSE MOOK POPEYE BOOKS)

平野紗季子 著

マガジンハウス

フラミンゴのいる店、実家みたいな店、メニューがひとつの店、店主がおそろしく怖い店。誰にも真似できない、あの味、この店…。東京の愛すべき飲食店を紹介する。『POPEYE』連載を書籍化。

毎日新聞 2021/11/27

2021:6./ 251p
978-4-8387-5480-9

¥1,980〔税込〕



パリ日記〜特派員が見た現代史記録 1990-2021〜<1> ミッテランの時代

山口昌子 著

藤原書店

在パリ 30 年、ボーン・上田記念国際記者賞受賞の女性ジャーナリストが 20 世紀末?21 世紀初頭の「世界」を克明に記した、スリリングな現代史クロニクル。1 は、1990 年 5 月?1995 年 4 月を収録。

毎日新聞 2021/11/27

2021:9./ 590p
978-4-86578-324-7

¥5,280〔税込〕

